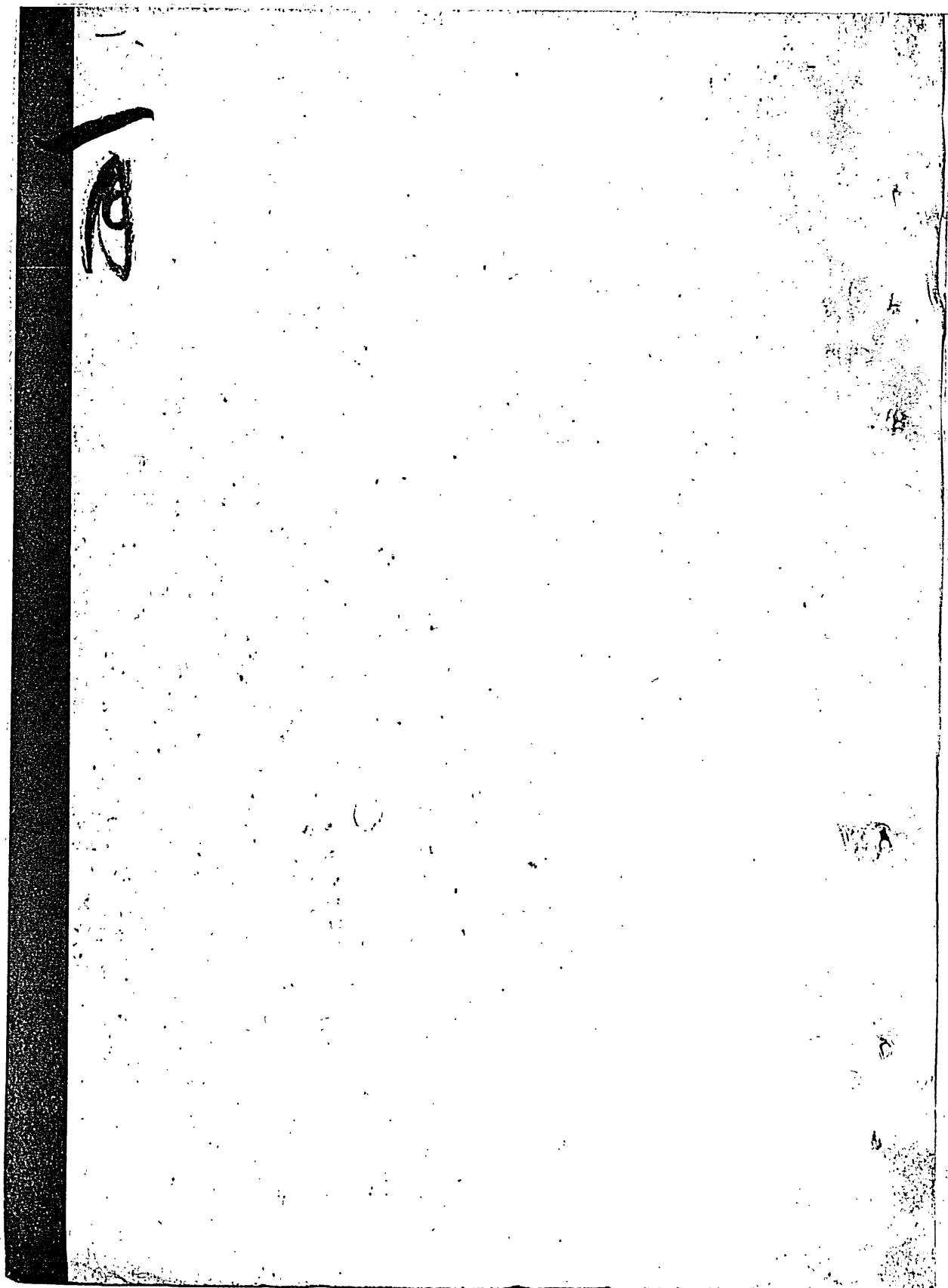




H-0 9 4 1

0006

5113

文化事業部  
特高秘發第二號

昭和五年一月六日

宮城縣知事 湯澤三千男

昭和五年壹月拾日 接受

亞細亞局

外務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
指定 廳府縣長官 殿

103.62  
黑龍江省留日學生同鄉會々章郵送越之件  
大伴君 啓月廿九日東北帝大中華學生馬希璘ニ宛テ  
中華民國黑龍江省留日同鄉會ヨリ公會々  
章一部郵送越ニタルカ接受者ニ於テハ一瞥ニ  
付ニタル終放置ニ居ル状況ニ有之

右及申(通)報候也

亞細亞局

文化事業部 第一號  
特高秘發第一〇號

昭和五年一月六日

宮城縣知事 湯澤三千男

内務大臣 安達謙藏 殿  
外務大臣 幣原喜重郎 殿  
指定廳府縣長 官 殿

中日同胞會 動靜ニ関スル件

這般ハ中國共產黨事件ヲ契機トシテ日支親善ヲモットートシテ組織セル中日同胞會ニ関シテハ既報ノ處其後主唱牧師等ノ熱心ナル活動ニ依リ各學校當局醫師辨護士並宗

教家等多數ノ援助者ヲ得ルに至リ其ノ第一回會合ヲ旧臘廿六日仙名市東三番丁組合教會ニ於テ開催シタルカ列席シタル中華學生二十四名(帝大生ハ、高工生ハ、二高生ハ、中等學校生徒七)アリ恰モ年未休暇ノ爲メ帰省又ハ旅行中ノモノアリシ爲メ出席良好ナラサリシモ中國共產黨事件ニヨリ起訴猶豫トナリタル謝位鼎、社會科學研究會員トシテ取調ヲ受ケタリシ周恒恩、馬季唐等モ出席シ何レモ主催者側ト隔意ナキ交歓ヲ爲シツ、晚餐、茶菓、饗應ヲ受ケ自己紹介並余興等ニ興シ和氣霽々裡ニ散會シタルカ主催者側ニ於テハ意外ノ好結果ナリトシ重テ此種確シラ爲スヘク別記ノ如キ

案内状ヲ發シ會合ヲ求メツアリ状況視察  
中  
右及申(通)報候也

一九三〇年の新春を迎えるにあたり皆様の御健康を祈ります。  
初て来るべきお正月を正月らしく面白く愉快に迎えるため、  
の凝りあい最も自由な会合をた記の場所に於て開く事に致し  
ました。万障お繰合せ是非共御出席下さい。  
尚面白く遊ぶ方法を各自御考ひ下さる様御願ひ致します。

昭和四年一月一日

仙台市荒町七十七番地

佐藤喜藏内

仙台中日同郷會

◇御出席の有無別紙葉書で御返事下さい

(一中、宮農校生の為め)

昭和五年一月五日午後二時

仙台市東一番丁六今泉民吉氏宅

(二高、高工校生の為め)

昭和五年一月六日午後三時

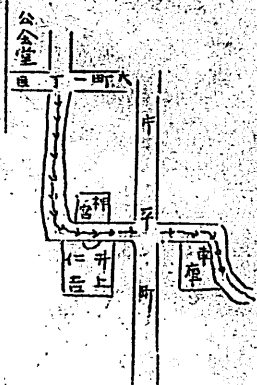
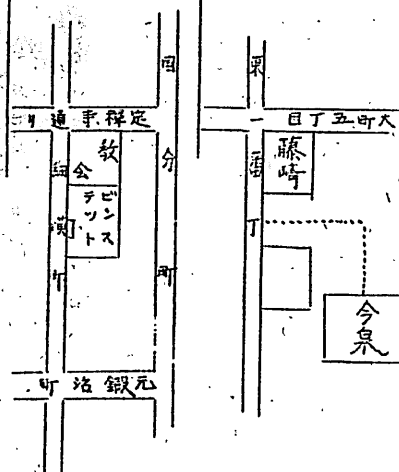
仙台市元鍛冶町九ビンスレット氏宅

(帝大関係者の為め)

昭和五年一月七日午後三時

仙台市片平町五八井上仁吉氏宅

片平町停留所前



陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

警視總監 丸山 鶴吉

昭和五年正月八日 接受

二五  
5.3.4  
大田

大田

108/1292  
103/112

中國共產党日本特別支部加盟支那人  
共產黨員退去處分執行ニ關スル件

本籍 中華民國江蘇省宜興縣楊巷鎮

住居 東京府北豐島郡高田町鷺山一四五九番地田中良子方

東亞豫備學校生徒 胡 堯 春 當十八年

本籍 中華民國廣東省台山縣都斛區眼鏡村

住居 東京市神田區西小川町二丁目四番地福壽館方

明治大學專門部學生 黃 植 生 當二十四年

(別名 甘棠)

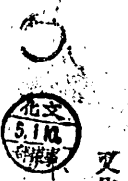
本籍 中華民國湖南省澧縣市加家拐

住居 東京府豊多摩郡代々幡町代々木上原一六九番地廣瀬時次郎方

羅 之 綱

(別名 祖 佩) 當二十三年

亞細亞局



文化事業部

秘第一六號

第一課

乙甲

昭和五年一月七日

警視總監 丸山 鶴吉

昭和五年正月八日 接受



内務大臣 安達謙藏殿  
 外務大臣 幣原喜重郎殿  
 司法大臣 渡邊千冬殿  
 大審院檢察總長 小松吉殿  
 各府縣長官殿  
 東京控訴院檢察正殿  
 東京地方裁判所檢察正殿  
 在支各內務事務官殿

108/1292  
103/52

中國共產黨日本特別支部加盟支那人  
共產黨員退去處分執行ニ關スル件

本籍 中華民國江蘇省宜興縣楊巷鎮

住居 東京府北豐島郡高田町鷺山一四五九番地田中良子方

東亞豫備學校生徒 胡堯春 當十八年

本籍 中華民國廣東省台山縣都解區眼鏡村

住居 東京市神田區西小川町二丁目四番地福壽館方

明治大學專門部學生 黃植生 當二十四年

(別名 甘棠)

本籍 中華民國湖南省澧縣市加家拐

住居 東京府豊多摩郡代々木上原一六九番地廣瀬時次郎方

羅之綱

(別名 祖佩) 當二十三年

本籍 中華民國湖北省黃梅縣塘穴鎮  
住居 東京府荏原郡碑衾町衾八七、第二紫明館止宿

廖 本 仁  
(別名、廖沖) 當十八年

本籍 中華民國廣東省廣州府新會縣  
住居 東京府下中野町上原八一六  
葉 培  
(別名、仲豪) 當二十五年

本籍 中華民國廣東省文昌縣邊城村  
住居 東京市神田區表猿樂町四番地山崎方

成城學校予科生 韓 金 元  
當二十六年

本籍 中華民國廣東省文昌縣煙墩市

住居 東京府豐多摩郡中野町上原八一六番地詹開進方  
東亞高等予備學校生徒 詹 忠 琇  
當二十二年

本籍 中華民國湖南省醴陵縣北三區塞下境  
住居 東京府荏原郡荏原町字小山五五〇番地「南竹」方

羅 昂 夫  
(別名、笑天) 當三十一年

本籍 中華民國浙江省杜鎮縣後地  
住居 東京市牛込區辨天町四番地平塚方

林 越  
(別名、修生) 當二十六年

本籍 中華民國奉天省開原縣

漢文姓名

住居

東京府荏原郡馬込町清水窪三六七八番地植木ヒサ方

東京高等師範學校特設予科生

何

鳳鳴

當二十二年

本籍 中華民國廣東省興寧縣新井

住居 東京市牛込區喜久井町二九番地青光館止宿

馮 曼 曼

當十九年

右十一名ハ何レモ秘密結社中國共產党日本特別支部ニ其情ヲ知リテ加盟シ同支部ノ各種會合ニ出席シテ共產党ノ目的タル帝國主義打倒、世界革命ノ達成、無産階級獨裁ニヨル共產主義國建設ノ實現ニ關シ協議シ進ンテ党ノ目的遂行ノ為ノ諸般ノ工作ニ從事スル所アリ

本年十月三日以降當廳ニ於テ檢警取調ノ上治安維持法違反トシテ一件記録ヲ東京地方裁判所檢事局ニ送致シタルニ審理ノ結果起訴猶豫処分ニ附セラレタル者ナルカ同人等ハ深ク共產主義思想ニ共鳴シ其ノ主義ノ實現ヲ期待シ毫モ改悛ノ情ナク此係本邦ニ滯留セシムルニ於テハ多数我國ニ在留セル支那人殊ニ留學生ニ對シ共產主義宣傳ヲ為シテ其思想行動ヲ惡化セシメ或ハ日本人共產主義者ト連絡シテ共產主義宣傳ヲナシ將來如何ナル不逞過激ナル行動ニ出テ我國ノ治安ヲ乱スヤモ測リ難キモノト思料セララルニ付何鳳鳴、馮曼々以外ノ九名ハ客年十二月十日外秘第三六五二號ヲ以テ又何、馮二名ハ同月十九日外秘第三七二〇號ヲ以テ別記各經歷行動概要ヲ添附内務大臣(貴官)宛之カ退去処分ニ

關シ申請中ノ如月二十九日內務省訓第一六三七號ヲ以テ  
同大臣ヨリ退去命令ヲ發セラレ之ヲ執行方ニ關シ同日附內  
務省警秘第一六二一號ヲ以テ內務次官(貴官)ヨリ依命通  
牒アリタルニヨリ各所轄署長シテ退去命令傳達書及內  
務大臣ノ退去命令書寫並通行券ヲ各受命者ニ交付セ  
シ別表ノ如ク各退去者一名ニ對シ一名宛當廳警察官吏  
ヲ附シテ兵庫縣ト連絡ノ上何鳳鳴以外ノ十名ハ本月二日  
午前十一時同港出帆ノ上海丸ニ乗船、長崎經由上海ニ向  
ケ又何鳳鳴ハ翌三日午前十一時同港出帆ノ北嶺丸ニ乗  
船門司經由天津ニ向ケ夫々退去セシメ當廳ヨリ長崎及門  
司迄警察官吏ヲ附シテ監視セリ

追テ神奈川、愛知、兵庫、大阪、山口、福岡、長崎、各

府縣ハハ右十一名ノ寫真送付済ニ付再渡来ノ際ハ上陸  
禁止相成度

右及申(通)報候

一、胡堯春

(一) 經歷

上海基督教懷思堂附屬守真中學校卒業後昭和二年九月上海中華藝術大學文學部ヲ中途退學シ昭和四年四月上旬神戸上陸上海ヨリ渡來四月神田東亞予備校ニ入學現在ニ至ル

(二) 行動

昭和四年五月上旬中國共產党日本特別支部幹部黨員王哲明ヲ紹介シヨリ同党ニ加盟シ同党東亞支部長トナリ爾來支部員王則夫、楊芳等ト秘密裡ニ明治神宮外苑其ノ他ニ於テ屢々會合シ同党主義ノ宣傳其ノ他ノ工作ニ關シ協議シ一面同党ノ指導スル藝術聯盟ニ加入シ黨勢擴

張ノ為同聯盟ヲ誘導シ諸般ノ工作ニ努メ居タルモノナリ

二、黃植生

民國十六年四月南洋英領緬甸華僑中學校卒業後翌十七年三月渡來シ同年四月神田東亞予備校ニ入學日語ヲ修習同年九月同校退學昭和四年九月明治大學政治經濟科專門部ニ入學現在ニ至ル

(三) 行動

昭和四年三月中國共產党日本特別支部黨員黃錫榆ノ紹介ニヨリ同党ニ加盟シ明大支部所屬黨員トナリ爾來同支部員左壽昌、劉鳳岡、黃錫榆、宋先達等ト自宅其ノ他ニ於テ屢々支部會ヲ開催シ黨勢擴張

此党ノ目的遂行上諸般ノ工作ニ于テ協議ヲナシタルモノナリ。  
昭和四年九月下旬党幹部ノ推薦ニヨリ中華留日社會  
科學研究會ノ總務トシテ社研對スル工作ニ當リ同月中  
旬同党機関雜誌「學校生活」ノ印刷ニ從事シタルモノナリ。

### 三 羅之綱

#### 一 經歷

民國十五年六月湖南允澤中學校卒業後上海大夏  
大學予科一年修業昭和三年七月神戸上陸渡來、神田  
東亜予備校ニ入學日語修習六ヶ月ニシテ本年四  
月早稻田大學專門部政治經濟科ニ入學現在ニ至ル

#### 二 行動

昭和四年二月當時東京帝國大學文科生中國共產  
党日本特別支部員鄭曉ノ紹介ニヨリ同党指導スル  
中國留日社會科學研究會ニ加盟シ高田寺組ニ編  
入組員鄭權等ト屢々會合シテ社會科學研究會ノ  
共產化ニ努メ又本年六月初旬第一外語生黨員胡堯  
春ノ勸誘ニヨリ共產黨領導下ノ中國青年藝術聯盟  
ニ加入シ無産階級藝術ノ達成ニ熱中スル等共產  
主義思想濃厚ナルモノアリ本年六月鄭權ノ紹介ニ  
ヨリ中國共產党日本特別支部ニ其ノ情ヲ知リテ  
入党シ同党高田寺支部黨員（後東京聯合支部ニ編  
入）トナリ爾來屢同支部ノ例会ニ出席シテ党勢ノ  
擴張並主義遂行ノ為諸般ノ工作ニ從事シタルモノナリ、

四 廖 本 仁

(一) 經歷

陝西省立第三中學初等科卒業後昭和三年十二月十三日神戸上陸渡來シ兄廖体仁同以仁ト同居シ日本語獨習中七月中旬廖以仁帰國シ廖体仁亦中國共產黨員梅電龍ノ關係ニテ檢挙セララル、ニ至リ本名ノミ肩書地ニ轉居セリ、

(二) 行動

昭和四年三月實兄廖以仁ノ紹介ニヨリ中國共產黨日本特別支部ニ加盟シ大岡山支部所屬黨員トナリ爾來屢同黨支部ノ例會ニ出席シテ主義宣傳ノ工作ニ于テ協議ヲナシタルモノナリ

三

(四) 昭和四年八月中旬露支間ニ於ケル東支鐵道問題喧傳セララル、ヤ本名ハ所屬大岡山支部ニ於ケル同問題ノ討論會ニ出席シ東支鐵道回收ハ延イテ日本帝國主義軍閥支那北方派援助ヲ誘致シ共產主義運動ヲ阻害スルモノナリトシ自國公便館ヲ訪問シテ東支回收反對ヲ主張スヘク決議シシリシカ本名ハ亦共產黨ノ指導スル中華留日反帝同盟ヲシテ日支鮮合同ノ反帝示威運動ニ参加セラレハ其ノ協議ニ加ハリ九月四日黨員吳福和ト共ニ京橋銀座街頭ニ於テ行ハレタル示威運動ニ参加シタルモノナリ、

(ハ) 昭和四年八月一日大岡山支部長鐘文ヨリ「國際

赤色記念日ノ宣傳ビラノ配布ヲ受ケ之ヲ府下  
碑倉町 自宅 附近ノ電柱ニ貼付シ又昭和四年  
九月十七日党幹部古傑ヨリ黨員廖体仁、及梅  
電龍救出宣傳文ノ原稿ヲ受ケ之ヲ神田區神保  
町北上印刷店ニ於テ五百枚ノ謄寫版刷トナシ  
其ノ一部ヲ中華基督教青年會ニ於テ來集者ニ  
配付シタルモノナリ

### 五葉 培

#### ハ經歷

廣東市立美術學校卒業後大正十三年九月三十日本  
邦ニ渡來同年十月東京亞予備校ニ入學シ翌十四年

三月退學又大正十三年十月ヨリ川端画學校ニ入  
學シ西洋画科四年在學現在ニ至ル

#### ハ行動

大正十五年十月黃曇ノ紹介ニテ社會科學研究  
會ニ加盟シ爾來本郷組ニ所屬シテ共產主義ノ  
宣傳工作ニ從事シ又昭和四年四月中共産党日  
本特別支部ノ指導スル中國青年藝術聯盟ニ加  
盟シテ爾來每週一回開催スル同聯盟例會及大  
會ニ出席シ茲同聯盟ノ庶務委員ヲ分担シ共產  
主義社會ノ實現ヲ期スル為無産階級藝術ノ達  
成ニ努力セルモノナリ

昭和三年十月初旬中國共產党日本特別支部党

葉山園  
記

員陳其昌ノ紹介ニテ同党ニ加盟シ大岡山支部所  
屬黨員トナリ(后高田寺組東京聯合支部ニ編  
入)爾來組會合(又ハ支部會)ニ出席シテ主義宣  
傳ノ工作ニ關シ協議シ又本年五月五日麴町區  
飯田町ニテ目黨員余炳文宅ニ於テ開催セル列  
會ニテ「反戦争宣言」ト題スル共產主義宣  
傳ノビラヲ支那留學生及黨員外ノ者ニ頒布  
スヘキ決議ヲ為シ之ヲ在京各學校ノ同鄉會ニ  
對シ各一部ヲ郵送シタルモノナリ

昭和四年八月月中旬中華留日鎖夏團ニ加ハリ房  
州館山ニ避暑中方洛ノ紹介ニテ中國共產党日  
本特別支部ヲ指導スル中國反帝同盟ニ加盟ス

ルストニ共鳴シ九月四日同々盟主催ノ銀座街頭ニ  
於ケル示威運動ニ組員陸斐昌 方洛、聶余緒  
ト共ニ参加シタルモノナリ

五

六 韓 金 元

ハ 經 歴

民國十七年十二月廣東國民大學政治經濟科卒業  
後昭和四年<sup>四年</sup>神戸上陸渡來シ同月成城學校予科ニ入學  
日語ヲ研究シ現在ニ至ル

ハ 行 動

昭和四年七月二十日中國共產党日本特別支部ノ指  
導スル社會科學研究會ニ加盟其ノ宣傳部員トシテ



員陳其昌ノ紹介ニテ同党ニ加盟シ大岡山支部所  
属黨員トナリ（右高田寺組東京聯合支部ニ編  
入）酒來組會合（又ハ支部會）ニ出席シテ主義宣  
傳ノ工作ニ關シ協議シ又本年五月五日麴町區  
飯田町ニテ目黨員余炳文宅ニ於テ開催セル列  
會ニテ「反戦争宣言」ト題スル共產主義宣  
傳ノピラレヲ支那留學生及黨員外ノ者ニ頒布  
スヘキ決議ヲ為シ之ヲ在京各學校ノ同鄉會ニ  
對シ各一部ヲ郵送シタルモノナリ

（ハ）昭和四年八月月中旬中華留日鎖夏團ニ加ハリ房  
州館山ニ避暑中方溶ノ紹介ニテ中國共產党日  
本特別支部ヲ指導スル中國友帝同盟ニ加盟ス

ルストニ共鳴シ九月四日同々盟主催ノ銀座街頭ニ  
於ケル示威運動ニ組員陸樊昌方溶、聶余緒  
ト共ニ参加シタルモノナリ

### 六 韓 金 元

#### （ハ）經歷

民國十七年十二月廣東國民大學政治經濟科卒業  
後昭和四年<sup>四年</sup>神戸上陸渡來シ同月成城學校予科ニ入學  
日語ヲ研究シ現在ニ至ル

#### （ニ）行動

（ハ）昭和四年七月二十日中國共產党日本特別支部ノ指  
導スル社會科學研究會ニ加盟其ノ宣傳部員トシテ

同會所屬早稻田・牛込神田大岡山、各支部ニ對シ共產主義ノ宣傳工作ニ從事シタルモノナリ

(四) 昭和四年八月二十日中國共產黨員鄭柏ノ紹介ニヨリ同黨ニ加盟シ東亞予備校支部所屬黨員トナリ爾來同支部員姚岸外八名ト屢秘密裡ニ會合黨主義實現ノ為協議シ同年九月四日同黨指導ノ下ニ京橋區銀座街頭ニ於テ行ハレタル反帝同盟示威運動ニ參加シタルモノナリ、

七、誓 忠 瑋

一、經歷

中國廣東國民大學中途退學昭和四年四月本邦へ渡來  
成城學校ニ入學シ次テ同年九月東亞高等予備學校ニ  
入學シ今日ニ至ル

(二) 行動

(一) 昭和四年二月本國ニ於テ共產主義青年團ニ加盟シ次テ  
今京後同年四月參閣進ノ紹介ニテ中國共產黨日本特別支部  
ニ入黨シ成城支部ニ所屬シ同七月ヨリ千葉縣下北條町へ海  
水浴ニ為滞在シ北條支部ニ歸京後ハ東亞支部ニ編入セラレ  
屢支部會ニ出席シ他黨員ト共ニ共產黨ノ目的タル事項ノ  
實現ノ為協議討論ニ參加シタリ

(四) 昭和四年九月四日京橋區銀座ニ於ケル日支兩國反帝同盟  
主催ニ係ル示威運動ハ黨員參閣進ト共ニ參加ノ目的  
ヲ以テ集合地神田水道橋下ニ到ルモ遲刻目的ヲ果サズ般宅セリ  
(ハ) 本名ハ本年七月王辟鉄ヲ同八月姚志瀛ヲ紹介シ入  
黨セシメタルモノナリ

八羅 昂 夫

(一) 経 歴

長沙師範学校卒業後北京中國大學之専攻部に通  
学元二年ニシテ退学昭和四年六月ニ上海復旦大學ニ  
歸文筆ト著ト有主ニ因居レ日本語独修中

(二) 行 動

(一) 支那居住中「新青年」経済学常譯者ニシテ共產主義ノ  
研究、没頭シ支那渡来ト同時ニ中國共產黨日本特別支  
部執リ委員ニシテ大園支支部長タル鐘文ト同居シ昭和  
四年七月上旬次國人ノ紹介ニヨリ社会科学研究會ニ會シ  
因例ニ出席シテカ國下向鐘文ノ紹介ニヨリ中國共產  
黨日本特別支部ニ加盟セリ

七

九 林

(一) 経 歴

越

(一) 南來國人「鐘文」吳福和劉以綱廖冲等ト共ニ共產黨ノ  
宣傳之作ニ関レ研究ノ努メ宣傳印刷物「支那戰事宣  
言」為東支鐵道告留日華僑「紅旗」「火花」其他党本部  
ヨリ交付セラル不穩文書ノ頒布ニ從事シ同年八月十六  
日党外國作及市同盟ノ提案ニヨル支那公使館破壊シ  
目的トスル東支鐵道問題討論會ニ出席シ且同年九月二十  
七日以來大園支支部印刷委員トシテ活動シ居タルヲナリ

浙江省立第六中学校ヲ卒業シ上海大同大學上海惠靈  
英文專修学校ニ各一年在學シ然後上海大夏大學ニ入学シ昭  
和四年八月卒業昭和三年九月ヨリ支那ニ渡来シ咸城学校

料予科之入学せんも本年六月帰國之際、東京帝國大學九月六日再度来ス

(一) 行 動

(1) 民國十七年六月上海大夏大學在学中、中國共產黨員上海藝術大學を陳昭之紹介、之國黨之党員陳昭楊子甲ト共ニ之義ノ研究ヲ為シ、更ニ昭和三年九月中日之渡来後同年十月中國共產黨員日本特別支部党員鄭曉ノ紹介、之國黨之加盤シ、東中野組員トナリ、後年、之支部員ニ編入、南東總會(又ニ支部會)ニ出席シ、之黨員松大其他ニ我黨宣傳ノ工作ヲ協助シ、又本年十月より、支部第一組長トナリ、支部長ノ命ニテ、組員ノ統制指導ニ努力セリモノナリ

(2) 昭和三年十月、之支部員、所屬ノ某書務所より禁止出収物「イレクター」ナルコレスポンランシ、買取メ、之ヲ三回、自ら上海薩坡、塞路、西門、等六路、各處中國共產黨員陳昭之對シ、郵送シ、之ニモノナリ

〇 何 鳳 鳴

(一) 経 歴

民國十四年十月、奉天省西豊縣ニ生ラレ、年々大ニ、十五年九月、自下關上陸、渡来、東亞學校備校ニ入学シ、日本語ヲ修習シ、後昭和三年二月、東京ニテ、師範學校特設支科ニ入学シ、本年三月、同校英文科ニ轉シ、之ニ入リ、之ニ入リ

(二) 行 動

(1) 昭和四年三月中旬、滿洲義勇隊ニ勸誘、ヨリ、中國共產黨員トシテ、特

別支部ノ指導スル中國共産黨支部聯盟ニ加盟シテ山東支團  
一面開催セル同縣區倒会ニ参加シテ九月二日及三日并  
町ニ青島支社ニ宿馬堂章方ニ於テ開催セル同縣區第二  
回大會ニ出席シ宣傳委員ニ當選シ傳テ共産黨ニ對テ實情  
ヲ期スル為ニ各階級政黨網ノ達成ニ努力セルモノナリ

(12) 昭和四年三月末ノ休暇中(山東前)共産黨ニ對テ宣傳ノ目的ヲ  
以テ党員宋健鵬ト謀議シ「春風」ト題スル傳稿ヲ執筆シ之ヲ騰  
寫及シテ百部ヲ印刷シテ第一高等學校外ノ各校ニ支那留學生  
ニ對テ四五部宛郵送シタルモノナリ

八昭和四年四月十日中國共産黨日本特別支部黨員會任達ノ紙  
亦シ同書ニ加盟シテ同支部所屬黨員トシ九月中旬ヨリ東  
京聯合支部ニ歸入シ東總會ニ出席シテ之ヲ宣傳信ノ工作ニ關シ

九

ニ依議シテ本年五月ヨリ新所ニ移居シ同日黨員會任達  
宅ノ於テ復會シ「反戰革命宣言」ト題スル共産黨ニ對テ我宣傳  
ビラヲ支那留學生及東京外ノ者ニ頒布シ又モ下リ決議  
シ中名目大早大日大東京高工外一高、慶大、各在學  
ノ同郷會ニ對シテ各一部ヲ郵送シタルモノナリ

### 二、馮 曼 曼

#### (一) 経 歴

廣東省興寧縣東山中學校卒業後上海藝術大學ニ入學  
シ修業シ昭和三年十月後來レテ以テ區區所ナリ在成城學校ニ  
學年四月頃同校退學同ニ此ヲ終ルモノナリ

#### (二) 行 動

(1) 昭和四年三月中國共産黨日本特別支部黨員ニ古傑ノ紹

有るより同党に加盟して支部設立委員と編入同年四月  
同支部長トナリ尔来等支部長會議及同支部例會を出席  
シ党勢ノ拡張ニ主ニ我遂行シテ諸般ノ工作ニ関シ協議シ  
同年七月自任ノ紹介ニヨリ古公堯ヲ同党ニ入党セシメタル  
モノナリ

(四) 昭和四年六月、石炭同郷會を發行シパンフレットヲ利用シ沙  
基慘安部念ノ詩歌ヲ作成シテ之ヲ掲載シ又同年八月  
所屬支部員古公堯等ト共ニ咸城學校并宿舍ノ側  
壁ニ白墨ヲ以テ東支鉄道面収及對ノ標語ヲ記載シ同  
党主義ヲ宣傳シ努メタルモノナリ

(ハ) 昭和四年三月同党ノ指導員中、華留自支教員聯盟に加  
入シ同年五月其系統ヲ又翌六月任職吏ヲ紹介シ同聯盟

盟ニ加入セシメ同年八月該聯盟ノ教育支部ヲ擔當シ同聯盟  
聯大會ニ出席シ之ヲ指導シテ同党ノ指導員反市同盟  
市威運動ニ參加シ決議セシメタルモノナリ

(ニ) 同年八月、中國共產黨黨員高士彬、梅電龍カ党中  
央部ノ命ヲ受テ日本特別支部ノ命ヲ受テ日本特別支  
部ノ視察並内紛(吉傑、王哲明ノ意見衝突)調査其他  
ノ使命ニ任ズ、歸來シテ同郷人市內見物、案内シタルニ  
テ自宅ノ宿泊セシメテ内紛状況ヲ諒知シ梅電龍ヲ將  
来極力之活動スル梯鞭鞭達シテ之ヲ屈服シタル事實アリ  
又梅電龍電カ轉宿ニ降レテ之ヲ種々之ヲ斡旋シ為シタルモノ  
ナリ

化文  
5.13  
昭和五年

文化事業部  
五外親 第二八六號  
第一課  
甲  
昭  
和  
五  
年  
一  
月  
一  
日

国書印

昭和五年壹月拾日 接受

改崎縣知事伊東喜八郎

内務大臣安達謙藏殿  
大正海軍省外務大臣幣原喜重郎殿  
指定廳亦縣改官殿  
大正海軍省

留日支那學生監督署港件

主東京留日支那學生監督

支那人 姜琦

103,82  
108,1292

右者昨七日神戸ヨリハ港ノ長崎ニテ上海行ノ途寄港本  
名ハ数年間現職ニ在リテ繁雜多煩タル事務ニ不堪故

ヲ以テ今回辭職願ハ當ニ將監督上ニ周スル打合ノ爲メ三  
週間ノ予定ニテ南京ニ赴クモノナリト称シ今日午後一時  
出港ノ全船ニテ上海ニ向ケお参シタリ  
右及申(通報)也

文化事業部  
5.114  
特秘第

第一課  
特秘第四九號

昭和五年一月八日

大常務

京都府知事 佐上 信一

内務大臣 安達 謙藏 殿

外務大臣 幣原 喜重郎 殿

指定廳 府縣長官 殿

支那留學生に除名處分ニ關スル件

京都帝國大學に在籍シ左記支那留學生ハ八月謝滯

納シ釐金ヨリ客月三十一日附リ以テ何レモ今大學ニ

於テ除名處分ニ附セラレタリ

右及申(通)報候也

記

文學部四回生 四川省隣水縣

法學部一回生 廣東省海豐縣

全 上 浙江省諸暨縣

地理學部四回生 廣西省北流縣

文 聖 學

鄭 長 群

命 元 鎬

梁 士 倂

(了)

昭和五年壹月拾壹日 接受

本



文化事業部

外紀第三八號

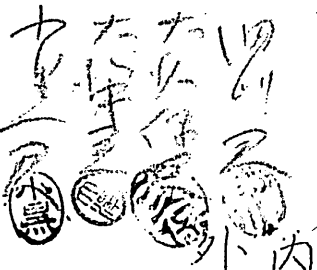
昭和五年一月九日



昭和五年一月十日 接受



警視總監 丸山 鶴吉



内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 芳澤謙吉殿  
指定廳 府縣長官殿

支那人學生入京ノ件

本籍 支那江蘇省宣興縣

住所 東京府下村並町高園寺六一番地屋號壇盧方

儲士俊

當二十九年

106.96

右東上ノ趣客臘十七日兵庫縣より来報ノ如左  
同日名八因月十五  
日午前七時東京驛着列車之ヲ神戶より入京、宿書地ノ居  
位中十八名本年八東亜高等豫備學校之ヲ日語修得ノ上  
東京美術學校之入學、洋画ヲ研究スルヲ定メリ

牛込区戸山町六番地

支那國民政府陸軍少將

陸軍砲工學生

蔣也成

當三十一年

牛込区余丁町九番地

支那國民政府陸軍砲兵大佐

陸軍砲工學生

林

當三十一年

敬

右東上ニ乗シ客臘二十日兵庫縣より東報知右兩名ハ  
何レ工學校在學中ノモノニシテ蔣ハ客年十一月十日家  
事都合上一時帰國中今四再渡来シ客臘十九日午前  
七時東京駅着列車ニテ帰京セリ又林ハ實弟林柏桑  
及妻林李氏渡日ニ付之ヲ神戶迄出迎ヘ同地ニ泊メ後  
實弟柏桑ト別レ林 敦ハ妻同伴寶塚經由同二十日  
午前九時二十五分東京駅着列車ニテ入京宿書地ニ投  
宿セリ

右及申(通)報候

文  
5.114  
部

文化事業部

特  
外  
鮮  
秋  
第  
二  
四  
號

昭和五年

同縣知事 招本學

外務大臣 安達謙藏 殿  
指 定 六府縣長官 殿

支那留學生ノ新年宴会開催ノ条件

要旨

九大在学支那留学生同窓会ハ本月二日新年宴会ヲ開催シタル  
力出席者十五名席上同窓会々報發行ヲ決議ス

108,1292  
103.52

管下九州帝國大學在學支那留學生同窓會ニ於テハ本月  
二日午後五時ヨリ福岡東中洲料亭福新樓ニ於テ新年  
宴會ヲ開催シタルカ出席者ハ發起人曾昭炯外十四名ニシ

テ席上發起人ノ挨拶ニ次キ同窓会報(雜誌)発行ヲ決議シ  
發行計画ハ幹事ニ一任スルコトニ午後十二時閉会シ  
タリ

因ニ同窓會報發行ニ就テハ引續キ注意中ナルカ目下幹  
事ニ於テ費用並ニ維持方法確立セサル爲メ一時保留ニ居  
レル狀態ナリ

右及中(通)報候也



**アジア歴史資料センター**  
Japan Center for Asian Historical Records  
<http://www.jacar.go.jp/>

語ル迄ニ依レハ

本名ハ本校第一期卒業生ノ秀オタル關係上自分ヨリ推選シ滿鐵ヨリ學  
資ノ支給ヲ受ケ廣島高等師範ニ留學セシメタルモノナルカ成績優秀ナ  
ル爲客年三月高師卒業ト同時ニ更ニ進ンテ京都帝大文科ニ入學シタル  
モ滿鐵ノ學資ハ高師卒業迄ノ契約ナリシヲ以テ中止セラレタルノ止ム  
ナキニ至リ爾來學資ニ窮々タルノ狀態ニテ這回ハ之カ替後策ニ就キ相  
談ヲ受ケタル次第ナルカ最早滿鐵側ノ學費給與ハ如何トモナシ難ク種  
々ト考慮ノ結果元旅順工科大學勤務内堀教授カ目下在京中日文化事業  
ニ從事セラレ居ルヲ幸ヒ同教授ニ交渉懇願スヘク添書ヲ交付シ置キタ  
リト

以  
上



文部省

第一課



昭和五年四月拾壹日接受

(天)

兵外務 第五五號

昭和五年一月九日

兵庫縣知事 高橋守

相模

1281292  
1281292

内務大臣 安達謙藏殿

外務大臣 幣原喜重郎殿

指定廳村縣長官 殿

艾那學生渡来月件

原籍艾那江西省

國民政府附陸軍中尉

羅戡氣 (三十一)

右者今回千米陸軍步兵學校入學ノ為ト

於本月七日當地入港、汽船上海丸ニ渡来

午後六時一、三、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、

容疑、点ノ認、ナリ

右及申(通)部候也

文化事業部  
5.1.15  
昭和五年

文化事業部  
第一課  
五外親第四十九號

昭和五年一月十一日

長崎縣知事 伊東喜八郎

大正海關事務大臣 安達謙藏殿  
大正海關事務大臣 幣原喜重郎殿  
指定廳府縣長官殿

留日支那學生監督寄港件

在東京留日支那學生監督

支那人 姜

琦

(四〇)

103182

右渡滬ニ関シテハ本月八日付五外親第二八六號  
ヲ以テ及申(通)報置候処本名ハ着滬早々  
東京ヨリ、招電ニ接シ昨十日入港、長崎丸ニテ  
引返、途寄港全日午後五時出港、全船ニテ神  
戸ニ向ケ出發シタリ  
右及申(通)報候

昭和五年壹月拾四日接受

(太田)



文化事業部 第一課 乙  
外秘第六三號  
昭和五年一月十日

一昭和五年一月十日接受



亞細亞局

手書  
細川

内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
指定府縣長官殿  
千葉縣 知事殿  
知名支那人入京件  
府下中野町本郷五三 隱慮方止宿  
江西省農業中學校教員

劉 春 普

當四十年

右東京三月六日兵外秘第一三號 兵庫縣より通報

アタル処 同人客月三日前一時東京駐著神戸より入京  
直ニ神戸区北神保町中華基督教青年会ニリカ力本  
吾ヨリ肩書一戸ヲ借受テ転居セリ 同人近ク日華青年会ノ  
幹事ニ約シ月間滞京シ市内各學校ノ教育狀況ヲ視察  
スル由

牛込区六番地息盧方止宿

元津浦鉄道局長

陸 恒

當三十八年

右東京三月三日兵庫縣より通報  
アタル処 同人客月三日前  
前一時東京駐著神戸より入京 肩書ニカ力女子大學ニ  
入學中 同人息女陸真恵ニ面会旁々觀光ヲ為メ泊来

シタルモノニテ市内親老ヲ為シワ、アル外容疑ノ莫ク認メ  
府下碑倉所倉一三七、遊林寮方止宿  
湖南省湘潭縣

支那陸軍少佐

呉 継 承

當ニ十八年

右東上ニ突シ兵庫縣ヨリ通報アリタル如同人ハ客月三  
十日午前七時東京駅著神ヨリ入京、府下碑倉所  
倉一三七、遊林寮方止宿  
本年四月ヨリ千葉歩兵學校ニ入學ノ為メ大岡山所  
在、佐々木日語豫備學堂ニ於テ日本語ヲ修習シ居  
レリ

右及申(通)報候

二

文化事業部  
5.17  
昭和五年

昭和五年五月十六日接受

亞細亞局

神奈川縣知事

山縣治郎

内務大臣安達謙藏殿  
外務大臣幣原重郎殿  
指上六縣府縣長及殿

知石支那人寄懐付

支那山東省人

燕京大學教授

田漢都

當年

505/129

右者ニテ、本月十日付兵外發秘才  
一、ヨリヲ以テ兵庫一貴縣ヨリ通報  
リタルモノ、延七日、鐵路神戸ヨリ来、誤同  
日午後六時、當地長帆ノ米國艦船、下マ  
チソン號ニテ、發米セリ

右及申(通)報候也

文化事業部  
特高第四九三號

第一課

昭和五年壹月拾四日 接受

昭和五年一月十三日

千葉縣知事 後藤多喜藏

內務大臣安達謙藏殿

外務大臣 幣原喜重郎 殿

十七  
黑指定廳府縣長官殿

支那陸軍將校入校ニ関スル件

管下千葉郡都賀村所在陸軍歩兵学校ニ乙種学生  
トシテ本月六日左記ノ通り支那陸軍將校萬建蕃外二十一  
名入校通学中ニ有之候条以段及中ニ通報候也

進而入校中、行動注意中ニ付キ申添候

| 出身有 | 住             | 所        | 階級 | 氏名  | 年令 |
|-----|---------------|----------|----|-----|----|
| 江西省 | 千葉郡都賀村作草部三三   | 白洋館      | 中尉 | 萬建蕃 | 二四 |
| 全   | 全             |          | 全  | 態綾春 | 二五 |
| 貴州省 | 全             | 所一〇六二突倉方 | 少尉 | 張貞瑞 | 二三 |
| 雲南省 | 全             |          | 全  | 李運旭 | 二四 |
| 湖南省 | 千葉市寒川上池尻一六四〇  |          | 中尉 | 藩國屏 | 二四 |
| 貴州省 | 全             |          | 少尉 | 劉伯龍 | 二五 |
| 湖南省 | 全             |          | 中尉 | 柏嶽  | 二八 |
| 廣東省 | 歩兵学校通り        |          | 全  | 陳華文 | 二八 |
| 貴州省 | 千葉郡都賀村椿森五三    | 笠原方      | 少尉 | 牟連芳 | 二五 |
| 全   | 全             |          | 全  | 李江  | 二三 |
| 安徽省 | 全             |          | 中尉 | 彭金鑑 | 二六 |
| 廣東省 | 歩兵学校通り        | 渡邊館      | 全  | 岑堅  | 二四 |
| 安徽省 | 全             |          | 全  |     |    |
| 四川省 | 東葛鈴郡船橋町九日市一五四 | 若松方      | 全  | 龔從民 | 二七 |
| 全   | 歩兵学校通り        | 川城方      | 上尉 | 馬定波 | 二二 |
| 全   | 全             |          | 全  | 賈未董 | 二三 |
| 全   | 全             |          | 方校 | 楊斌  | 二五 |
| 全   | 東葛鈴郡船橋町九日市一五四 | 若松方      | 上尉 | 郭學淵 | 二四 |
| 雲南省 | 歩兵学校通り        | 吉田方      | 方校 | 馬駒  | 二六 |
| 四川省 | 千葉郡都賀村作草部三五五  | 櫻井方      | 全  | 姜勲  | 二八 |
| 奉天省 | 千葉市西院内一三四二    | 宮川伊三郎方   | 処長 | 趙國儒 | 三〇 |
| 山東省 | 全             | 穴川二七五三   | 中尉 | 胡玉墀 | 二二 |
| 全   | 全             | 清宮方      | 中尉 | 胡玉墀 | 二二 |
| 安徽省 | 千葉郡都賀村作草部七八一  | 高山繁藏方    | 方校 | 袁仰山 | 二七 |

文化事業部  
5.1.15  
昭和五年

特許秋波第二九號  
第一課

昭和五年一月十三日

近湖西

宮城縣知事湯澤三千男

昭和五年四月廿四日 接受

内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
指定廳府縣長官殿

中國青年黨印刷物郵送件

客月廿九日管下第二高等學校中華留學生馬季唐  
宛中國青年黨留日總支部「中國青年黨公開黨  
名宣言」ト題スル印刷物ヲ郵送越シタルカ内容ハ共產  
黨ヲ排撃セルハニフレアドニテ接受者ハ一瞥ニ附シ夕

ル俚放置シ居ルノ状況有之  
右及申通報候也



文化事業部  
外務第九三號  
昭和五年一月十三日

第一課中

昭和五年正月十六日接受



内務大臣 安達謙藏 殿  
外務大臣 芳澤謙吉 殿  
大藏大臣 原嘉三郎 殿  
逓信大臣 高橋是清 殿  
陸軍大臣 高橋是清 殿  
海軍大臣 高橋是清 殿  
文部大臣 高橋是清 殿  
司法大臣 高橋是清 殿  
農林大臣 高橋是清 殿  
工商大臣 高橋是清 殿  
教育大臣 高橋是清 殿  
警視總監 丸山鶴吉 殿

入國特許支那人入京ノ件

本籍支那湖北省大冶縣

住居 小石川區白山御殿前一〇九番地勤俣學舎内

東亜高等予備校生 土表 堅 易

當二十二年

500/292

右東上ノ系ニ客臘十三日長崎縣より來報ノ如ク同名ノ同年  
十月二十日午前八時三十分東京駅着列車ニテ入京、青書  
地ニ居住中ナルカ本名ハ自國ニ於テ四川成都大學文學部  
予科二年修業後渡米セシ由ニテ尋致御目未定ナルニ何レ  
カノ私立大學ニ入學ノ目的ニテ目下神田東亜高等予備校  
ニ通學、日語ヲ修習中ニテ其行動客疑ノ点ナキト引續キ  
注意中

右及中(通)報候

文化事業部  
兵外發秘第八九號

昭和五年一月十三日

第一課 中乙

兵庫縣知事 高橋 守

並細亞局

内務大臣 安達 謙藏

外務大臣 幣原 喜重郎

指定廳附縣長官 設

知名支那人來往ノ件

原籍 支那廣西省

國民革命軍長江要塞司令部

軍醫所長兼南洋醫科大學校長

吳 宗 慶

(三四年)

5081/292  
103.52

5081/292  
103.52

右者本邦ニ於ケル醫學狀況觀察タタキ本月十日午後五時半上海ヨリ神戸入  
港ノ太平洋丸ニテ渡來、全六時二分三厘發列車ニテ愛知病院ニ向ケ出發セル資格別  
傳異ノ言動ヲ力リキ

右及申(通)報候也

藍綢亞局

文化事業部  
五特秘第一〇〇號

昭和五年一月十三日

京都府知事佐上信一

内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
指定廳府縣長官殿

要旨

旅日華僑光華小學校一週年紀念會開催状況ノ件  
本月十日午後一時ヨリ旅日華僑光華小學校ニ於テ福州同鄉會及旅日華僑聯合會主催ノ下ニ全校創立一週年紀念會ヲ開催シタルカ  
會同者ハ神戸駐在支那總領事代理副領事任家豊、東京國民院  
總支部長外二名ノ末賓アリテ福州同鄉會及旅日華僑聯合會側ヨ  
リ四十名留學生九名合計七十九名列席シ同會向國旗行ニ聯行ニ  
始マリ中國国歌ヲ合唱聯誼會同永志ノ總理遺囑ヲ恭讀領事ノ訓示  
ニ末賓ノ講演アリ後學校功勞者張德球外二十五名ニ獎状ヲ交  
(一)

午後二時式ヲ終ヘ余興後一同記念撮影ヲ為シテ宴會ニ移リ  
全六時四十分無事散會セリ

京都市中京區聚樂廻西町旅日華僑光華小學校ニ於テ福州同  
鄉會及旅日華僑聯合會主催ノ下ニ本月十日午後一時全校創立  
一週年紀念會ヲ開催シタルカ末賓トシテ神戸駐在副領事任  
家豊及東京國民院總支部長葛西啓其他二十名列席シ午  
後二時式ヲ終ヘ余興後一同記念撮影ヲ為シ市内千本通仁和  
寺街道支那料亭四海樓ニ於テ午餐ヲ為シ午後六時四十分  
無事散會セルガ會同者並ニ其ノ状況左記ノ通ニ有之  
右及申(通)報候也

記

一會同者

末賓

神戸駐在副領事

任家豊

H-0 9 4 1

(ハ) 留學生

大政中華學校生徒  
同校生徒  
劉鴻萬  
于天壽  
外六名  
三十四名

(ニ) 状況

向國旗行三鞠躬  
唱我愛中華(國歌)  
小學生徒三回

恭讀總理遺囑  
全員一同合唱

唱國民黨々歌  
周永志

唱歡迎歌  
全小學生徒

報告學校經過情形  
同校講師王謙

別紙訳文ノ週年記念ト題スル印刷物ヲ報告  
佐家豊

(ト) 領事訓辭代副領事

(三)

要旨 旅日華僑光榮小學校開設以來星霜早一ケ年  
茲ニ一週年記念祝賀會が開催セラル、ニ當リ不  
肖領事代理トシテ列席シタルハ欣快トスル処デ  
アル今ヤ在上到ル処文ノ必要ヲ感セサル処ナレ  
幸ニ在京旅日華僑光榮小學校開設以來其ノ  
成績見ル可キモノアリ諸氏今右一層ノ努力以テ  
本校ノ持續發展ヲ期セラレタシト簡單ニ述ベ  
タリ

(キ) 講演

神國々民衆總支部執行委員葛島武藏  
神戶國民黨支部代表 志永

(リ) 給獎狀

佐家豊副領事ヨリ興學校創立功勞者トシテ張徳球



中国々民党駐日総支部代表

執行委員 葛 武 棠

私ハ南京ニ用事がアツテ行キマシテ丁度日本ニ帰ツテ参リマシ  
タ時ニ愉快ナル我が華僑ノ経営セル光華小學校ノ満一週年記念  
祝賀會ニ列スルコトヲ得タルハ誠ニ光榮ニ存ジマス  
教育ノ重大ナルコトハ誰モ知リ且感シテ居ルノミアリマス我國  
ノ教育ハ文明諸國ニ比シテ極メテ幼稚ニシテソノ子供モ十名ノ  
中八名ハ教育ヲ受ケズ殊ニ女子ニ於テハ教育ヲ受クルモノ  
極メテ少ナイ状態デアリマス現在國民政府ハ教育ノ必要ヲ  
ナル矣ヲ指摘シテコレヲ施設ヲ完全ナラシムベク着々ソ  
レヲ辦法ヲ講ジテ居リマス而シテ國民各自ノ自覺ニヨラザ  
レバコレガ完全ヲ期スルノ辦法ハナイノデアリマス  
我國ノ華僑ハ南洋ニ米國ニ日本ニ到ル所追々教育ノ施設  
ヲ講ジテ居ルコトハ誠ニ喜バンイ事デアリマスコノ時ニ

(五)

際シ我が京都ノ華僑が素ヒ教育ノ重要ナル事ニ各自  
自覺ヲ有シ難シ排シテカノ施設タル光華小學校ヲ設立  
シソノ子弟ノ教育ヲナスコハ其ガ中華民國ノタメニ極メテ  
喜ビニ堪ベサルモノデアリマス願ハクハ京都華僑諸氏ヨ  
將來ヨリ光華小學校ノ如ク努力シ益々前途隆盛ニ向  
ヘンコトヲ希望イタシマス

神戸國民黨支部代表

日 國 永 志

今回満一週年祝賀會ニ神戸ヨリ出席代表ヲ出セトノ事テ  
色々協議シマシタ処光華小學校ハ極メテ福州人ニ縁故  
アリテアリマスガ福州人ノ私が神戸支部ヲ代表イタシ  
マシタコト一言御祝ヲ申上ゲマス  
教育ノ如何ニ重要ナルモノデアリカハ須知ノ事矣デアリ  
マス然レニ我國ノ教育ハ極メテ幼稚ニシテ其ノ施設亦

極メテ不完全デアリマス文字ヲ解セサルモノソノ米教以上  
及ビ言語不統一ノタメ相互ニ其ノ意思ヲ通スルコト不  
能誠ニ我が中華民国ハタメニ憫嘆ニ不堪ス今ヤ中華  
民国ハ國民政府ニヨツテ統一サレ其ノ施政方針タル三民  
主義ニヨリ内治安民ノ實ヲ擧クベク努力シテ居リマス  
我國ノ同胞ハソノ人口ニ比シテ總ヘテ極メテ悲觀ノ状  
態デアリマス又フリカヘツテ華僑方面ヲ見ルニ幼ニシテ  
子弟ハ多ク日本小學校ニ入學シ日本語ニヨツテ教  
育サレ自國語ヲ忘レ遂ニハ我が中華民国ヲ忘ルニ  
到ル状態デアリマシタ多クノ華僑ハ阿片ヲ飲ミ賭博  
ヲナシ竊盜ヲ働キ常ニ中華民国ノ体面ヲ汚シテ  
居リマシタソウレテ少シモ教育ノ興ニツキ自覺シテ  
居リマセンヤウナ有様デアリマシタガ追々横濱神戸東  
京京都トテ教育ノ施設タル華僑小學校ガ設立シ

(六)

来リタルユトハ甚ダ堪ヘマセン  
我が華僑ハ日本ニ来テ日本ノ錢ヲ儲ケテ生活シテ行クモノ  
デアリマスソノ日本ニ於テ儲ケタル金デコノ小學校ヲ經營ス  
ルノデスカラ困難ナルコトハ予想外デアリマスソノ困難ト  
闘ツテ今ヨリニ京都華僑ニヨツテ設立セラルタル光華小學校  
校ノ満一週年記念祝賀會ニ際シ甚ダ述フルト共ニ益  
々隆成望ヲシコトヲ希望スルモノデアリマス

(三)

文化  
5.15  
昭和

文化事業部

昭和五年一月十三日

特設第三四號

昭和五年一月十三日

昭和五年

宮城縣知事湯澤三千男

大正十四年  
外務大臣幣原喜重郎殿  
指定廳府縣長官殿

中華留學生官費給與試驗施行

三ツスル件

管下仙臺高等工業學校中華留學生王忠義潘  
宝樹王慶恩王克富孫修仁五名、從來自費、  
シ以テ在學中、處迄報東京、中華留日學生監

督所、官費給與、試驗施行スル者通報アリ  
何レモ本月二日上京受驗、上今月七日歸校タルヲ結  
果發表ハ本月下旬迄、有之、  
有及申通、報候也

亞細亞局



文化事業部

兵外務部第一課

昭和五年一月十四日

兵庫縣知事

高橋 年

雄

昭和五年一月廿日 接受

大田



内務大臣 安達 謙藏 殿  
外務大臣 幣原 喜重郎 殿  
指定府縣長官 殿  
支那人未往ノ件  
支那浙江省  
元中華民国駐日留學生監督處  
職員 葉朝鈞 (二十五年)  
陳慶 (二十三年)  
右者合面待職帰國ノ途次ナリト稱シ十四日午前八時過  
三宮駅着列車ニテ東京ヨリ来神今十一時出帆ノ長崎  
九ニテ長崎經由上海ニ向テ帰國シタルカ本名等ハ  
座視察員ニ対シ駐日留學生監督姜琦ハ都会ニ依リ  
過取職シ其後任ニハ廣東省經理員羅翼羣代理監督  
トシテ就任スル事トナリ姜琦ハ先達事務引継ノ爲メ帰國  
セルヲ以テ自分等モ姜琦ト進退ヲ共ニシ今面待職帰國スル  
コトナリタル次第ナリ云々ト語レリ  
二 原籍 支那四川省廣漢縣裁判官  
兼國民革命軍才二十八軍混成旅秘書  
劉 善 徵 (三八年)

10352

右者客月十日神戸入港ノ長崎丸ニテ親光ノ爲メト称シ家族  
同伴渡来東上セシ旨公十三日附兵外務部第三三三九號  
既報ノ處本名ハ東京京都其他ノ親光ヲ終ヘ歸玉ノ金ナ  
リト称シ本月十四日朝三宮駅着列車ニテ京都ヨリ来神  
今十一時出帆ノ長崎丸ニテ帰玉セルカ特異ノ言動ナカリキ  
三 原籍 支那浙江省杭州  
浙江省政府建設技師  
周 先 (四〇年)

右者今四約二ヶ月ノ予定ヲ以テ本邦ニ於ケル産業状況

視察ノ為ナリト稱シ本月十一日當地入港ノ聯絡船長崎  
丸ニ乗渡來午後六時一三三號船係列車ニテ東京市神  
田区中幸青年会内謝介眉ノ許ニ向ケ出彙セル格  
別容終ノ終ナカリキ  
右及申(通)報候也

(ロ)

亞細亞局

第一課 甲  
特外第二六二號

昭和五年一月十四日

山口縣知事 黒崎典



内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
指定廳府縣長官殿

渡来支那人留學生言動ノ件

10262

要旨：冬期休暇ニ返國中ノ處登校ノ為渡来セルモノニシテ  
張宗昌・張學良ノ人物現狀ニ付語レリ  
本籍 中華民國奉天省遼陽  
當時 東京市外大久保百人町三九徳川方

陸軍大學生

陸軍少將

蘇正格

當三十三

右昨十三日午後六時三十分入港開釜連絡船ニ  
テ渡来セルヲ觀察スルニ冬期休暇ニテ回帰ナリ  
頃返國今回登校ノ趣ニシテ何等容赦ノ具ヲ察見  
セサルモ船中左記談ヲ為シ第二列車ニテ東上セリ  
右及申(通)報候也

左記

自分ハ現在張學良ノ部下ニナルガ元ハ張宗  
昌ノ部下デアッタ張宗昌ハ目下閑人トシテ  
別府ニ静養中タカ一飯ノ噂ノ如ク全然沈落  
シタト云フ誤ハナク大体本人トシテハ張學良

ヨリモ寧ろ立派ナ人物ヲアルガ部下ノ悪クツタ  
自分ノ考テハ將來彼ガ再起スル時機ガナイト  
モ限ラハ様ニ思フ

「僕ハ政治問題ノコトハ一向判ラヌカ四画ノ状況  
カラ推シテ南京政府ノ影ハ漸次薄ラグモト  
察セラレ張學良トシテモ何時迄モチリヲ繋グ  
カハナリジロウ

然シ張學良氏モ奉天軍官校ヲ出タケテ軍  
人トシテ政治家トシテモ大ナル手腕家ト認ムルコト  
ハ出来ナイソレニモダ若年ノ事故正當ニ考ヘテ  
見ル時ハ多數ノ部下ヲ統御スルコトハ覺え東  
ナイカモ知レヌ

三東支鉄道ノ問題ナドハ爲政當局ガ馬鹿ナ道

カタスレノダカラドンナニトモナルカモ知レヌ云々

六六四四



第一課 中

外紀第一一六號

昭和五年一月十五日

昭和五年一月十八日 接受

支那留學生監督局長



警視總監 丸山 鶴吉

内務大臣 安達謙三 殿

外務大臣 芳澤 謙吉 殿

文部大臣 田中 隆三 殿

指定 薩 府 縣長 官 殿

支那留學生監督局長  
大塚 秀雄

支那留學生監督局長 支那留學生監督局長 支那留學生監督局長

昭和四年十一月以来在京支那各省留學生(奉天、吉林、黑龍、江西、浙江、雲南、廣東、河北、湖南)ハ駐日留學生監督委員 熊慶之 横濱ナリトシテ事毎ニ机友目レ各留學生

106.86

ハ致シテ委員 熊慶之 排斥運動ヲ起シ紛擾ヲ醸シ居ルカ同國公使汪榮寶及日華協會理事山井 格等共同ノ調停ニ立タルニ經理員等ノ態度強硬ニシテ之ニ應ズル模標ナキヲ以テ委員 熊慶之 自巳ノ不徳ノ覺リ客席中向辭意ヲ決シ國民政府教育部宛病氣ヲ名トシ辭表提出申ナリシカ最近同教育部ヨリ許可ノ通知アリタルヨリ支那公使館ニ於テハ其後任トシテ現廣東經理員 羅 群ヲ推薦シ教育部宛申請中ノ代理監督トシテ指定セラレタル以テ一昨十三日前監督委員 熊慶之 事務引継シ受テ就職シ其旨監督知内ト掲出シテ 廣東監督臨時學務科長タリシ張 振漢及同總務代理科長 金 某等ノ兩名ニ連袂辭職シタル以テ代理監督 羅 群ハ其後任トシテ左ノ如ク任命セラル

前廣東經理処書記

總務科長

✓李

璞

前江西有經理員

學務科長

鄧

天民

追々前監督姜琦ハ家族同件一週間ノ後帰國スヘク  
備中ナカ金葉音ハ當分滞在シ張振漢ハ文學研究  
ノタメ引續キ滯京ノ予定ナリト

右及申(通)報候

亞細亞局



文化事業部

外務省

昭和五年一月十五日

長崎縣知事 伊東喜八郎

内務大臣 安達謙藏殿

外務大臣 幣原喜重郎殿

指定廳府縣長官殿

支那軍人寄港ノ件

國民革命軍第二師々部諮議兼  
江蘇省警察廳公安局長

陸軍少校 承 李 厚

103.52

富二十七年

右者昨十四日上海ヨリ入港ノ上海丸ニテ神戸行ノ途  
寄港シタルヲ調査スルニ本名ハ四年前廣東黃埔軍  
官學校ヲ卒業シ一年四月前ヨリ府書現職ニ在リ  
今回官費ニ依リ日本陸軍士官學校入學ヲ命  
セラレ渡來シタルモノナリト稱シ陸軍訓練部長發  
給指令書及ヒ外交部發給ノ駐日公使宛紹介状  
ヲ携帶シ居タルカ今日午後五時出港ノ全船ニテ異  
状ナク神戸ニ向ケ出港セタリ

右及申(通)報候也

第一課 申

化事業部  
特秘 収外 第三七七號

昭和五年一月十六日

愛知縣知事 岡 正 雄

昭和五年正月廿日 接覽 (大)

内務大臣 安達謙藏 殿  
外務大臣 幣原喜重郎 殿  
警視庁 大阪 京都 兵庫  
福岡 岡山 神奈川 廣島  
官域 各府縣長官 殿

支那留學生ノ動靜ニ関スル件

管下在留支那人留學生ハ客年四月當初三十  
一名ヲ算シタルモ這般來退學帰國スルモノ引  
續キ現在二十六名(年齢十八歳以上)ニ減少スルニ至

リ 管下居住留學生ハ何レモ思想穩健  
ニシテ各々學業ニ精勵シ居レルモ中ニハ學  
資杜絶ニ達シ或ハ銀塊暴落ニ伴フ學資  
金不足ニ相當不安ヲ抱キ又他ヨリ融  
通ニ依リ輕シテ生活並ニ學資ニ充當シ居  
ルモノアリ  
愛知医科大学及名古屋高工留學生年間ニハ  
未だ右ノ事實アルヲ觀テハ全クハ高留學生  
間ニ於テハ曩年既報ノ如ク客年十一月學  
校當局ニ對シテ授業料及校衣費ノ納付延  
期方々願出テ尙學年未ニ至ル許可ヲ得  
ル者郡縣外八名中文科三年林慶餘ヲ  
加ヘテ宛記四名ハ學年未既ニ近キニ拘ハラ

又未納入途ヲ得ス夏慮ニ居リ  
 尚船和三年十一月八日高雷石ヨリ文部省文  
 化事業部宛今校留學生中理ニ李德詮  
 王世豐、六三、史邦燾、林慶餘ノ四名ヲ関  
 ニ學資補助方申請セシメ、本年月八日前  
 記李德詮、六三、客年十二月分ヨリ月額七  
 十兩を支給セラル、コトナリタルガ他ノ  
 留學生ニ於テハ大イニ羨望シ今校之ニガ支  
 給方同校生徒課ニ懇請ニ居リ、状況ナリ  
 御参考ニシテ  
 右及申(通)報候也

記

一、授業料第一、二期滞納者

|     |    |    |     |
|-----|----|----|-----|
| 福建省 | 私費 | 六三 | 林慶餘 |
| 安徽省 | 私費 | 六三 | 史邦燾 |
| 吉林省 | 官費 | 理二 | 王世豐 |
| 合   |    | 理一 | 高慶春 |

二、授業料第一、二期分滞納者

文化事業部

五特利

第五四九號

昭和五年一月十九日

京都府知事

佐上信一

第一課

中

昭和五年正月廿一日接受

太田

亞細亞

伊藤 新大臣 安達謙藏殿  
大石 務大臣 幣原喜重郎殿  
指定廳府縣長官殿

日本研究創刊號來着之附件

上海派克路登取貝里

新紀元月刊社

新紀元月刊社於日本研究出版計畫  
二對當地東京大學學生死後投稿方新請シ來リ  
ク件之附件客月十四日付五特利一三四號ヲ以テ申通シ

報シ置キタルガ二月十五日付今社ヨリ當地東京大留  
學生死日本研究創刊號一部左記目次ノ如キ  
モノ郵送シ來リタルヲ以テ内閣閣下實宣ハ現品相  
添ハ

右及申(通)候也

目次

卷頭言

馬相伯先生日本研究談

日本文明之特性

魏志倭人傳研究

日本目前之農業問題性質及重要點

金解禁問題

日本金解禁由來ノ結果

小泉公雲著  
陳樹齋譯  
陳樂素  
高橋重吉著  
夏培澤譯  
馬寅初

日本金解禁の經過と將來  
 日本經濟國家金解禁問題  
 日本金解禁研究  
 日本金解禁各方面對立影響  
 日本大事記  
 各報通信新聞選錄  
 日本風俗人情談

紹介  
 紹介  
 方崇賢  
 電通社  
 記者  
 記者  
 殷汝耕

文部省  
文部省  
文部省

文部省  
文部省  
文部省

第一二二號

昭和五年一月二十日



京都府知事佐上 信一

昭和五年一月廿日 接受

内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
指定廳府縣長官殿

留日中華民國京都學生總會開催ノ件

要旨 留日中華民國京都學生總會開催ノ件  
五名ノ送別ノ東京市北白川追分町ライオンクラブ  
オナカエエニ於テ開催シタルカ出席者ハ馬祥麟外十四名ニテ  
張祖德ノ開會並ニ送別ノ辞アリテ卒業生李九林外四名ノ答辞  
アリテ執行委員劉鴻方ノ會務報告全劉錦武ノ會計報告ノ後役  
員選舉ノ行ヒ茶菓ノ喫シ午後五時開會セリ

10352

10352

留日中華民國京都學生總會開催ノ件  
會址 本會卒業生歸國者送別會兼本會月八日午後三  
時留日京都府縣長官殿  
開催ノ東京市北白川追分町ライオンクラブ  
午後五時無事閉會セリ

一會同有月八日午後三時

二會同場所 東京市北白川追分町ライオンクラブ

三出席者 京都府知事佐上 信一

京都府知事佐上 信一  
本會卒業生歸國者送別會兼本會月八日午後三  
時留日京都府縣長官殿  
開催ノ東京市北白川追分町ライオンクラブ  
午後五時無事閉會セリ

全日本経済學部生 劉 競 武  
 全日本農學部生 董 甫  
 全日本理學部生 董 甫  
 全日本經濟學部生 吳 學 義  
 全日本農學部生 陳 錫 鑫  
 全日本理學部生 李 允 森  
 全日本經濟學部生 劉 鴻 萬  
 全日本農學部生 千 百 溪  
 全日本理學部生 外 五 名  
 全日本經濟學部生 十一 名

全日本農學部生 董 甫  
 全日本理學部生 董 甫  
 全日本經濟學部生 吳 學 義  
 全日本農學部生 陳 錫 鑫  
 全日本理學部生 李 允 森  
 全日本經濟學部生 劉 鴻 萬  
 全日本農學部生 千 百 溪  
 全日本理學部生 外 五 名  
 全日本經濟學部生 十一 名

全日本農學部生 董 甫  
 全日本理學部生 董 甫  
 全日本經濟學部生 吳 學 義  
 全日本農學部生 陳 錫 鑫  
 全日本理學部生 李 允 森  
 全日本經濟學部生 劉 鴻 萬  
 全日本農學部生 千 百 溪  
 全日本理學部生 外 五 名  
 全日本經濟學部生 十一 名

全日本農學部生 董 甫  
 全日本理學部生 董 甫  
 全日本經濟學部生 吳 學 義  
 全日本農學部生 陳 錫 鑫  
 全日本理學部生 李 允 森  
 全日本經濟學部生 劉 鴻 萬  
 全日本農學部生 千 百 溪  
 全日本理學部生 外 五 名  
 全日本經濟學部生 十一 名

全日本農學部生 董 甫  
 全日本理學部生 董 甫  
 全日本經濟學部生 吳 學 義  
 全日本農學部生 陳 錫 鑫  
 全日本理學部生 李 允 森  
 全日本經濟學部生 劉 鴻 萬  
 全日本農學部生 千 百 溪  
 全日本理學部生 外 五 名  
 全日本經濟學部生 十一 名

全日本農學部生 董 甫  
 全日本理學部生 董 甫  
 全日本經濟學部生 吳 學 義  
 全日本農學部生 陳 錫 鑫  
 全日本理學部生 李 允 森  
 全日本經濟學部生 劉 鴻 萬  
 全日本農學部生 千 百 溪  
 全日本理學部生 外 五 名  
 全日本經濟學部生 十一 名

全日本農學部生 董 甫  
 全日本理學部生 董 甫  
 全日本經濟學部生 吳 學 義  
 全日本農學部生 陳 錫 鑫  
 全日本理學部生 李 允 森  
 全日本經濟學部生 劉 鴻 萬  
 全日本農學部生 千 百 溪  
 全日本理學部生 外 五 名  
 全日本經濟學部生 十一 名

(一) 執行委員

京大経済学部 三回生 吳三學 義

六全 法學部 二回生 傳 素

空 工學部 一回生 田 時 雨

全 経済学部 二回生 鄧 世 英

三 委員 高 朗 稟 質

(二) 候補委員

京大 法學部 一回生 王 俊 階

全 農學部 一回生 田 作 霖

以上同志 當選シタルが担当役割ハ常務、文讀、

交際、會計、庶務ノ五ツに分レ居リテ之が割當ハ

執行委員會議開催ノ席上決定スル趣ナリ

七 閉會

張祖徳 公簡當選ニ閉會ノ辭ヲ述ハ一同茶菓ヲ喫シ

(三)

午後五時散會セリ

進テ當選シタル役員中吳學義一名ノミ出席シ居

リテ他ノ六名ハ何レモ欠席セル為メ果シテ役員タ

ルヲ承諾スルヤ不ハ不明ニ有之

亞細亞局



文化事業部  
五外親第  
第一課 甲

昭和五年一月廿日

昭和五年一月廿日 接受

(太田)

内務大臣 安達謙藏 殿  
外務大臣 幣原喜重郎 殿  
指定 齊藤 栄次郎 殿

長崎縣知事 伊藤 善八郎

中國共產黨日本特別支部加盟客運支那留學生渡来件

支那河南南南南村

北海道札幌市北支条西十一丁目一南居住

北海道庁大附屬水産専門部

第一課 年生

巴 耀 (二二) 一級

右者本月十八日上海ヨリ入港、長崎ニテ神戶至由札幌行途

寄港ニテハ調査スルニ本年ハ、前年十月三日中國共產黨検査ノ  
際札幌警察署ニテ取調ヲ受ケ三月間勾留、后釈放セラレ  
タルハ本年秋末中ナリニ定ム、故國ノ際旧腕ナリ神戶出帆、  
汽船ニ登ルニテ渡来環境ニ見送りヲ為シ今其ノ般校ノ途ナ  
リト稱シ今日午後五時本港、全船ニテ墨状ナリ神戶ニ向ケ  
出発シタルニ依リ為念兵庫(遠来ハハ船内通報ヲ為シ置キタ  
リ  
右及中(通報)也

文化事業部

第一課 甲

特秘發第三八號

昭和五年一月廿日

昭和五年一月廿日 接受

宮城縣知事湯澤三千男

内務大臣安達謙藏殿  
外務大臣牧野伸顯重郎殿  
指定廳府縣長官殿

送還中華學生ヲ通信ニ関スル件

103.52  
中國共產黨日本特別支部ニ加盟シタル中華學生漆宗  
學外二名ノ送還ニ関シテハ既報ノ處本名等ハ旧臘三  
十日長崎ヨリ出帆シ無事上海ニ上陸シタルモノ、如ク本月  
六日東京府下江ノ庄居住ノ漆ノ寅兒漆同洪宛ニ

無事上陸目下滞在申ナル旨未信アリタル趣キ同洪ヨリ  
當地ニ高生謝位特ニ通知アリ三名共異状ナク歸國  
セルモノト認メラル  
右反申(通)報候也



文化事業部

第一課

甲乙

第



特秘 収外第七八五號



昭和五年壹月廿二日 接受

並細亞局

昭和五年一月二十一日

愛知縣知事 岡 正 雄

内務大臣安達謙藏殿  
外務大臣幣原喜重郎殿

警視廳大阪京都神奈川

兵庫福岡長崎

各廳府局長官殿

103.5-2  
大正九年  
支那南洋医科大學  
長來名雄

支那南洋医科大學長來名雄 勳靜手紙

原籍 江西省南昌縣序新

住所 上海孟德蘭路重慶路八號

中國革命軍長江要塞司令部軍医處長  
兼私立南洋医科大學長

吳

宗

慶

當三十五年

本名ハ大正九年愛知医專卒業后全校附属病院ニ於テニ  
ケ年間、實習ヲ了ヘ今十一年一月独逸ニ留學民國十四年帰  
國上海私立南洋医科大學長トナリ民國十七年蒋介石軍ニ投  
シ國民革命軍々々總監ニ就任 客年十二月辞職シタルモ現  
ニ尚病書長江要塞司令部軍医處長ヲ兼任シ居レル趣ニ  
シテ今般靜養ノタメ約一ヶ月間ノ予定ニテ來邦セリト称スルモ本  
邦在留支那人ヨリ前記南洋医科大學増築寄附金募  
集ヲ兼ネ居レルモノ如ク本月十二日午後六時ニ分名驛着列車  
ニテ神戸ヨリ來名目下市内中區丸田町岡村瀬平方ニ止宿シ

日々母校タル愛知医科大学ニ藤井學長、齊藤教授其他  
附属病院各部長ヲ訪問、医学方面、研究ヲ行ハス或ハ左ノ如ク  
曰知、招待ニ係ル歓迎会等ニ出席

本月十四日午后六時ヨリ、市内中區大池町精養軒ニ於ケル  
藤井愛知医科大学長其、他教授主催ニ係ル歓迎会  
ニ出席、愛知医大ニ係者市内各新聞記者等三十余名参集  
支那時局問題等ニ于テ意見、交換ヲナシ、午後九時盛  
會裡ニ散會

本月十八日藤井医科大学長、齊藤教授、上遠野孝、池田増  
太郎、名古屋商工會議所三浦書記長其、他市内有力者  
二十余名出席、名古屋商工會議所内土曜會主催、例  
會ニ臨ミ、午餐ヲ共ニシタル后一時三十分散會

尚平名ハ至大同窓會或ハクラブ會其、他豊田紡績等右  
方面ヨリ招待ヲ受ケ、ツ、アルモ別ニ特異、言動ナク、母國揚  
州、日支問題或ハ米支子係ニ就キ尤記、如ク語り居タルニ付  
御参考ニ述

進而平名ハ本月二十三日頃上京、若

右及申ニ通報候也

### 記

母國動乱ニ于テ

蒋介石氏ハ實ニ勢力絶倫ノ軍人テ軍務ニ從事スル傍ラ政  
治論ヲ熱心ニ研究シテ居ラレ、頭腦明晰ナルヲ西洋ノム  
ツリニ一ト對抗シ得ル傑物ト信シ居レリ、最近日支ノ新聞  
紙上ニ閻錫山、河南、山東ヲ糾合シテ蒋介石氏ニ對抗ス  
ルトカ或ハ馮玉祥、石友山等カ反蔣ノ策ニ腐心シ居レリ

將々ノ師  
計画

所謂リモ之ハ蔣總司令ニ比スルハ到底古ク師團ヲ有シ又  
之ハ軍ノ機密トセラレ居ル目下テ師團ノ増充ヲ為スヘク計画  
中ナリ

然レ現在テ支那ハ日本ノ維新時代ト同様に支那ノ平和ノ未  
ル迄ハ相當ノ年月ヲ要スルモノト信ス現在ニ於テハ三ツノ要  
塞カアリ長江要塞ノミテモ毎月數十万円ノ費用ヲ要シ政府ハ  
國民ニ對シ増税ニ要クニ増税ヲ以テシ其ノ税金ノ三分ノ  
二ハ軍費ニ三分ノ一ヲ教育衛生交通其ノ他ノ費用ニ充當  
シ居ル狀態ニシテ現代ニ於テ税額ノ三分ノ二迄モ軍費ニ  
費スルカ如キハ時代錯誤ニ甚シキモノト言ハサルヲ得サルモ現下ノ  
支那情勢ニ於テハ之又止ムヲ得サル狀態ナリ

(四) 日支問題ニ就テ

日支兩國ノ親善ハ口先大ケテハ兩國ノ平和ヲ計ル事ハ

至難ナル私ハ政治家ヲナシカラ外交止ノミトハ信ス知ラ  
ズカ一例ヲ申セバ私カ愛知縣大村孝當時ハ十數名ノ留學生  
カ居リテ現今ハ僅カ本科生トシテ一人在學ニ居ル大テ  
此四五年前ハ吾國ノ南洋モ一人モ入學カ許サレナイテアル  
此間ニ藤井學長ニ面會シタルトキ本年度カラニ右ノ入學  
カ許サレタル林總談シタル定員外ノ入學ハ縣當局カ許サヌテ  
國學館ニテテ事アル之等ハ只一個人ノ事ヲアルカ如此モノハ  
解決ノ強ニ延テ國際的圓滿ヲ助長スルモノト信ス  
之ニ及ビ米國テハ毎年吾國ノ留學生ヲ募集シ之ニ相當ノ補助  
ヲ與テ居ルカテ毎年幾百人トテ米國ハ留學シテ居リマス  
素統ト云フモノハ恐ロイモノテ之等米國ノ學校ヲ卒業シ  
タ先輩ハ皆各地留學生ヲ使用シテ居リ遂ニ療養及藥料等至  
ルテ米國製藥ヲ使用シテ居ル狀況ヲス吾國ニ現在ハ大學カ

ハ米支子係ニ就テ

有りマズカ内六ツ南洋遠大ノハ私カ日本ノ学校ヲ卒業  
シタ子係止愛知区大ノ卒業生彭毓祐石正邦蒼瑩鑑及其  
他日本ハ苗學シテ教授四十余名ヲ使ツテ居リ医療機或ハ藥  
品モ好シテ貴國製藥ヲ使用シテ居ル次第デス  
米國政府ハ數年前北京ニ何百方田カラ技ニ協和医科大學ヲ  
建設シ毎年吾國ノ学生ヲ百名以上募集シ之ニ相當ノ補  
助ヲ與ヘ又社會事業ニモ毎年多額ノ投資ヲ爲シ十七校ノ大  
學ハ何レモ米國人ノ子係ニテ居リマス夫レカ為メ吾國ノ青年  
ハ米國ハニ贊意ヲ表スルモ米國ノ政府ヲ賞賛シテ居リマス然レ  
之ハ民國人ハニ誤解シ米國ハ經濟力ヲ以テ我民國ヲ子  
ニシテ居ル事ハ明ラカニ此莫ハ中國ノ政府トシテモ相當  
或ハ居ル次第デス其之ハ獨リ支那ノミナラス日本政府

トシテモ相當考ヘテ賞ハネハナラヌトデス 云々

亞細亞局

文化事業部  
特高秘第二七六號

第一課

昭和五年一月二十一日

栃木縣知事 原田 維繼

昭和五年一月廿二日 接受

(大)

内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
陸軍大臣 宇垣一成殿  
指定廳府縣長官殿

留學奉天軍將校ニ関スル件

魚籍 遼寧省

熱河駐軍司令部少校副官

洪 啓 濟

10352

右者本年一月六日より日本軍隊見学研究ノ  
爲熱河省政府主席湯玉麟ノ派遺ニ依リ私  
費ニテ管下竿都宮輜重兵第十四大隊ニ陸  
軍輜重兵中尉ノ待遇ニテ配属サレ宇都宮  
市小幡町四丁目下宿屋八幡館事人見キ  
シ方ニ止宿シ出勤見學中ナルカ私用ノ爲一  
月二十五日より二月五日迄、同本國へ販還  
スヘク目下手續中ノ趣ニ有之迄々中ニ販  
國スルモノト思料セラレ候系  
此段申(通)報候也  
追テ本年五月末日迄出勤見學研究ノ由有之

亞細亞局

文化事業部 第一課甲  
特秘發第五六號

昭和五年一月二十一日

12

宮城縣知事 湯澤三千男

昭和五年一月廿一日 接受

太田

内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
文部大臣 田中隆三殿  
指定廳府縣長官殿

退去中華學生ノ言動ニ関スル件

中國共產党日本特別支部ニ関與シ退去命令ニ依リ  
歸國セル中華學生東北帝大生藤太恩、漆常興並  
扶學ヲ銳ニ関シテハ屢報ノ處本名等カ當廳視察員

ト共ニ神戸迄同車中漏シタル言動尤記ノ通りニ付  
并ニ謝参老迄。  
石又申(通)報候也。

左記

藤太恩ノ言動

混亂ト騷擾ノ中國ニ共產革命ノ達成ニ期シ幾ケ年間軍閥ノ  
飽リナク搾取ト戦乱ノ苦惱ニ呻ク四億ノ民衆ニ當放スベキ目  
的ノ下ニ組織セラレタル吾中國共產党ハ本國ニ於テハ打倒軍  
閥ニ及帝運動ニ血ニドロノ戦ヲ統ケツアル折柄 吾々同志  
ハ空シク日本官憲ノ手ニ依ツテ追放セラルトハ何タル悲痛  
ノ極デアラハ、吾々ノ運動ハ何等日本ノ安寧ヲ紊ルコトナ  
ク且ハ直接日本ノ左翼団体トモ連絡ヲ保フコトヲ唯專心

中國革命ノ達成ニ齎センツ、マツタニ不拘日本ノ官憲ハ如何ナル理固ナルヤ、吾々ヲ逮捕シ、吾々ヲ拘禁シ、今又吾々同志ヲ國外ニ追放セントナレフ、アル、吾々同志ノ鉄ノ如キ決心ハ官憲ノ彈圧アルトモ、金力ノ誘惑アルトモ断シテ動搖スルモノデハナク約百日ニ互ニ拘禁中生活ハ吾々ニハ堅キ決意ト誠練トノ斷續デアワタ、中國革命ノ達成ハ更ニ全世界ノ革命ヘノ萌芽デアル、歴史ノ確固タル歩調ハ凡ユル因難ニテアラユル制度モソレヲ新レギモノ、カアルモノ、ニ創造シ直シテ行クデアラウ、吾々が敗國後ノ苦難ノ路ハ察スルニ難クナイ、然レ吾同志ハ巨腕ヲ堅ク結ビテ軍閥、金權ソレヲ裏切者共ヲ蹴飛シテ吾等が社会ヘノ曉ヲ目指シテ勇敢ナル斗争ヲ展開スルデアラウコトヲ誓フ、

日本ヲ去ルニ望ミ日本ノ同志諸君ニ別辭ヲ送り得ナイコトヲ残念ニ思フ、

### 潘宗興ノ言動

自分ハ岡山第六高等學校卒業後東北帝國大學ニ入學シ經濟學ヲ専攻シテ居ッタノデスガ今回退去命令ヲ受ケタメテ詮方ナク帰國スルカ今後ハ共產主義ヲ断念シ只就職ノ途ヲ進ム考ヘテ居リマスカ先ツ上海ヘ無事上陸出来ルカ如何カラ心算シテ居ル、其時ハ共產黨員ト見レハ密教ナク應懲スルト云フコトヲ聞イテ居ルカ上陸シテ見ネバ不安デナラス私ハ當分故郷ヘハ歸ラス上海ニ於テ機械職エトナリ働イテ其ノ間勉強シテ何トカ今一度取消サルレバ再渡日レ與テ士氣ヲ得度イ希望ヲ抱イテ居ル目下祖國ハ年中行事ノ様ニ戦乱ノ渦中ニ在リテ生活ノ安定ヲ得ルコトカ困難ナル自分ハ渡日シテ十年

ニナルカ其ノ間一度帰國シタノミテ大分異ニテ居ルと思フ  
東京ニ私ノ従弟テ漆宗常カ居リ目下第一高等學校  
文科三年ニ入學シテ居ルカ共產党ニ關係シテ居ラヌ等  
テアル自分ハ最初ノ希望ニ輝ク勉學ヲ志却シテ共產  
主義社會ノ實現ヲ爲メニ其ノ実行方法等ヲ協議シタ  
コトハ今更後悔シテ居ル次第テアル兎ニ角留學中ハ  
極メテ好感シテ日本人ニ迎ヒラレタコトハ忘レ得ヌ私共ノ  
深キ印象テアル自分達ハ帝國主義ニハ反対ノ意見ヲ有  
テ居ルカ日本人ニ対シテハ決シテ憎惡ノ念ハ毛頭ナイレ排  
日運動等ニ堆ルハル勇氣ヲモナクシテ考ヘ有テ居リ  
マセヌ

扶世ヲ銳ノ言動

自分ハ中國共產党日本特別支部ニ加盟ハシテ居ツタ分別  
ニ積極的ニ日本ノ不利益トナル様ナ行動ハレナカッタノテヨモヤ  
在留禁止ノ處分ニハナルマイト期待シテ居ツタ其ノ後メ類  
件カ落着キニタナラバ再び帝大ニ在學スルコトカ出来ルレ其  
ノ曉ニハ從來ノマルギレズム思想ヲ捨テ只管學問ニ精進  
シ是非英日本ノ學後ヲ得テ帰國スル覺悟ヲ居ツタノテ  
アルカ幸志ト遠ヒ今ヲ退去ヲ命セラレテ日本ヲ去ラネハ  
ナラト謂フコトハ如何ニ自業自得トハ言ヒテラ感懐無量  
ニ堪ヘナイ在留八年ノ學業ニ就ニ徒勞ニ歸シタ父ハ目下  
廣西有ノ某縣知事ヲ奉職シテ居ルト聞イテ居ルカ何  
ノ類ヤアルテ相見ユルコトカ出来様カ  
兎ニ角自分ハ湖南ノ某家迄歸リ得ル旅費等ハ所持シ  
テ居ルカ唯タ上海カ無事通過シ得ルカ如何ウカハ全ク寢

付カレナイ程心配テアル。今ハ其ノ事ノミカ眼前ニ渾沌  
トシ其レ以外ノコトナトハ深ク考ヘ余殆ハ持タナイ若シ首  
尾コク上陸カ出来タラハ一踏実地ニ歸リ父母ニ謝罪シ  
テ當分謹慎スル積リテアル其レテ機會カ来ラハ重ネテ  
日本ニ渡来レ勉強ヲ繼續シタイト冀メ居ル若シ再ヒ  
渡来カ不可能ノ場合ニハ修得シタ日本語ヲ利用シテ  
教壇ニテ又立テタイト思フテ居ル。

文化事業部

第一課 甲

昭和五年一月二十一日

昭和五年正月廿四日接受

(大)

高橋 守

六連印

内務大臣 安達謙吉殿  
事務大臣 幣田七郎殿  
指室社 長友殿

思想実務支那学生函送来件  
系籍支那河南省通許縣南門内  
巴忠祥 長男

住下 北條通札幌市北六條西十二丁目一  
世持道常武大寺水産專門部

二年生 目録事 巴 耀 (二五年) 一級

右者 昭和五年一月二十六日 当地出帆 汽船三全丸ニテ 取  
寄 金二七円 外 寄 金 費 取 寄 三三八一 席 既 報 外 本 年 八 月  
月十九日 午 時 三 分 當 地 入 港 ノ 汽 船 長 崎 丸 ニ テ 病 母 有 護

今 入 入 解 放 中 今 回 復 援 金 次 ナリ ト 稱 シ 再 渡 来 セル カ  
取 調 ハ タル 毛 證 據 事 件 實 係 實 務 支 那 生 ト レ テ 嚴 密  
二 月 二 十 四 日 付 外 乙 秋 亦 五 九 一 九 席 世 持 道 ( 慶 應 ヲ リ )  
通 報 ノ 次 亦 有 之 一 時 入 出 フ 禁 止 シ 為 合 世 持 道 ( 貴 ) 社  
ハ 電 報 照 合 シ タル ニ 入 出 支 障 甚 キ 旨 ノ 回 答 ニ 接 シ タル  
以 入 出 セ シ メ タル ニ 金 三 十 一 日 午 時 復 世 持 道 三 官 取 寄 金 本  
ニ テ 目 下 存 在 女 子 高 等 師 範 學 校 ニ 寄 學 中 ノ 妻 劉  
述 雲 フ 訪 問 函 三 日 際 甚 ノ 上 級 校 ノ 寄 金 ナリ ト 稱 シ  
出 費 セル カ 存 在 ( 貴 ) 社 ハ 此 旨 電 報 手 配 シ 置 キ  
左 及 中 ( 通 ) 報 候 也



文化事業部  
特高第一六四號  
第二課

昭和五年一月二十五日

昭和五年正月廿八日 接受

内務大臣 安達謙藏 殿

外務大臣 男爵 幣原喜重郎 殿

指定府府縣長官 殿

支那亞局

支那陸軍將校入隊ニ関スル件

103.52

管下千葉郡津田沼町所在騎兵第十三聯隊ニ本月  
九月九日記、通リ支那陸軍將校入隊致シ東京市牛込区  
原町三丁目七十番地ニ下宿通字中ニ有之矣条狀故  
及申(通)報矣也

訃

|     |     |    |    |    |
|-----|-----|----|----|----|
| 出身者 | 推薦者 | 階級 | 氏名 | 年令 |
| 奉天省 | 湯玉麟 | 少校 | 護國 | 二七 |

他文  
5.129  
新報

文化事務部  
特高部一七七四号

第一課

昭和五年一月二十八日接受

(大)

少  
少  
少

内務大臣安達謙藏殿

外務大臣幣原喜重郎殿

亞細亞局

指定各庄府縣長官殿

千葉縣知事後藤ヨシ喜藏

103.82

支那陸軍將校入校ニ関スル件  
管下印潞郡旭村所在陸軍野戰砲兵學校昭和五年  
度乙種學生トシ本月二十一日左記ノ通り支那陸軍  
將校周文章外九名入校ニ通學中ニ有之候条此段申  
(通)報候也

記

| 現住所 | 国籍  | 擔當者 | 學年          | 氏名  | 年令 |
|-----|-----|-----|-------------|-----|----|
| 河南省 | 河南省 | 馮玉祥 | 砲兵教導團<br>畢業 | 張秀巖 | 〃  |
| 河南省 | 河南省 | 馮玉祥 | 砲兵教導團<br>畢業 | 翟金墀 | 二三 |
| 河南省 | 河南省 | 馮玉祥 | 砲兵教導團<br>畢業 | 徐德瀾 | 二九 |
| 河南省 | 河南省 | 馮玉祥 | 砲兵教導團<br>畢業 | 李春森 | 二五 |
| 河南省 | 河南省 | 馮玉祥 | 砲兵教導團<br>畢業 | 吳滌凡 | 三二 |
| 河南省 | 河南省 | 馮玉祥 | 砲兵教導團<br>畢業 | 張鳳書 | 二六 |
| 河南省 | 河南省 | 馮玉祥 | 砲兵教導團<br>畢業 | 趙維周 | 〃  |
| 河南省 | 河南省 | 馮玉祥 | 砲兵教導團<br>畢業 | 葉筱泉 | 二八 |
| 河南省 | 河南省 | 馮玉祥 | 砲兵教導團<br>畢業 | 趙壁  | 二九 |
| 河南省 | 河南省 | 馮玉祥 | 砲兵教導團<br>畢業 | 周文章 | 二四 |

滋賀縣

文化事業部  
5.21  
5.21

五特秘第三五二號

昭和四年一月二十七日

京都府知事

佐上 信一

第一課 甲

昭和五年一月廿五日 接受

(大)

内務大臣 安達謙藏殿  
務大臣 幣原喜重郎殿  
指定並奈良各廳府縣長官殿

思想容疑支那人學生來往ノ件  
原籍 中華民國河南省通許縣南門内  
住所 北海道札幌市北六條西十二丁目一

北海道帝國大學水産専門部

二田 生

巴

耀

當二十五年

右ハ今面上海ヨリ再渡來神戶經由肩書地ニ向ケ出發シタル旨本月二十日

並外親第八番ヲ以テ長崎縣ヨリ通報アリシガ今名ハ本月二十日午  
後四時頃神戶ヨリ入洛京都駅前杉ノ家旅館ニ少憩後即時  
電車ニテ奈良市ニ至リ今夜九時帰洛杉ノ家旅館ニ投宿シ翌二十日  
早朝再電車ニテ奈良ニ向ケ出發シ今日午後六時頃奈良女子高等  
師範學校ニ留學中ナリシ内妻列述雲ヲ同伴再帰洛後其翌  
二十三日午前八時三十分京都駅發列車ニテ妻列述雲同伴東上セルガ  
滞在内容疑行動ナシ  
右及申(通)報候也

5101

文化事業部  
外秘第二七七號  
第一課甲

昭和五年一月二十八日

警視總監 丸山鶴吉

大正十四年  
一月二十八日

外務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 芳澤謙吉殿  
指定 駐在 縣長 官殿

思想 容疑 支那人 之 罪 之 件

北海道帝國大學水産專門部二年生

河南省開封府

巴

昭和五年  
二月

元京良女子高等師範學校家政科一年生  
河南省開封府

劉 雲

當二十一

右東上ノ趣一月二十三日奈良縣より來報ノ処同名等八人同日午前  
八時十五分東京駅着列車ノ入京ニ至リ神田區表猿樂町五番  
地那須久八方園甚英ノ許ニ入リ巴耀ハ帰校スト稱シ同日  
二十五日午後九時上野駅着列車ノ歸道中カ劉述雲ハ尚  
勉學ノ爲メト稱シ目下一時釈放中ノ園甚英、陳曼雲等ノ  
共産黨員等ト同屋中ナリ此等其行動引續中注意中  
右及申(通)敬候



文化事業部 第二課 甲  
特秘外第... 部

昭和五年一月二十八日

愛知縣知事 岡 正 雄

昭和五年一月廿日 接受

(太田)

支那... 大臣安達謙藏殿  
務大臣幣原喜重郎殿  
警視廳大阪兵庫千葉  
岐阜、各廳府縣長官殿

支那將校入隊 件

原籍 四川省內江縣

住 所 名古屋市西區御幸本町、本町ホテル内

歩兵第六聯隊第一中隊配属

陸軍上尉(大尉)

張 漢 銀

當二十三年

右者今般支那國民革命軍第二十四軍団長劉文輝

ノ推薦ニ依リ肩書聯隊ニ配属スルコトナリ本月二十四

日午後五時九分名取着列車ニ東京高師第二學年

ニ留學中ノ友人揚芳標同伴来名 本名ハ翌二十五日入

隊、目下池田大尉指導、下ニ軍事學研究中ナルガ本年

八月末限り退學、上ノ葉歩兵科技術學校ニ入學、趣

追而同伴者揚芳標ノ前託張漢銀ト親戚ノ係アリ之レガ  
通譯ハタス来名今明中ニ歸京スベク称シ居レルモ張ハ

右及申(通)報候也

相商日本語ヲ解シ通譯ノ必要認メラルニ於テ揚  
芳標ノ陳述稍ミ予有ク矣アリ行動内密視察中

文化  
521  
521

○

文化事業部  
第一課  
特外第四三三號

昭和五年一月二十八日

山口縣知事 黒崎真



昭和五年一月廿五日接受

大印

三原  
(男)

内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
文部大臣 田中隆三殿  
指定並愛媛各府縣長官殿

12.8.1.292

中田學院總務長寺内地視察件  
本籍 松山市北夷子町七六  
住所 支那天津 中田學院内  
中田學院總務長 藤井 真次

國務 支那天津

中田學院教員 常 造 32

右者本日午前七時入港関釜連絡船ニテ渡来  
モレヲ視察スルニ内地教育状況視察、爲約四  
週間、予定ヲ以テ長崎高崎ヲ始メ東京、京都  
等各地ニ赴ノ旨自供レ中田學院、情況ニ関シ  
左記談ヲ爲シ今七時四十分發連絡船ニテ渡門、長  
崎ニ向リ

左記

一本中田學院ハ對支文化事業部、出資ニシテ  
東京同文會ヲ經テ之ヲ下付セラレ邦人幹部ニ  
名支那人幹部六名アリ日本、留學スル者ノ

豫備教育ヲ爲スヲ目的トシ目下生徒百三十  
名アリ本学院ノ科程ハ年限六年、前期四  
ヶ年ハ日本中學程度、后期二年ハ専門學校  
程度ニシテ生徒ハ何レモ日本留學ヲ唯一ノ希望  
トシテ學業ニ精勵シ居レリ  
ニ夫那現下ノ情勢ハ中央政府ヨリモ中央黨部  
ノ勢力優勢ニシテ現ニ中央黨部ノ命ニヨリ  
中黨部及中學以上ノ學生ハ盛シニ治外法權  
撤廃問題ノ運動ニ奔リ走シ居ル状態ナルガ  
其他ノ問題モ等シノ此ノ方法ニヨリ其論ヲ喫  
起シ中央政府ニ其實行ヲ促進セシムル猛烈  
ナル運動ヲ爲シテ下リ云々

B

文化事業部

第一廳

昭和五年五月廿一日接受

亞細亞局

一、分世級、叙系、二三六、第

昭和五年一月廿八日

兵庫縣知事高橋守

五

大久保 務大臣 安達謙茂 殿  
 古田 務大臣 幣原重 郎 殿  
 指三 府縣七 友 殿

要注意支那學生渡來一件

孫毓文刑部  
湖北省臨澧縣

信丁主都林左京區淨土寺田少屬木村忠一

京都府編入要注意人

鄧 靄 (三年)

右点一、壬午九月二十日、神戶出帆、汽船七隈丸ニテ家事ノ都合ニ依リ一付歸国中ノ至、今回復校、途次ナリト稱シ、九月二十日午後三時、南牧一港ノ汽船長崎丸ニテ再渡来上陸、直ニ上洛セシ方、勁靜視察スニ格別容疑ノ莫ナカリキ。

右乃律通一報心也

H-0 9 4 1

0086

**アジア歴史資料センター**  
Japan Center for Asian Historical Records  
<http://www.jacar.go.jp/>



文化事業部 第二課 印

五外親第一三九八號

昭和五年一月二十八日



一 昭和五年正月廿五日 接受

太



亞細亞局長

7

印



長崎縣知事 伊東喜八郎

内務大臣 安達謙藏殿  
外務大臣 幣原喜重郎殿  
指定廳府縣長官殿  
在支各内務事務官殿

不穩印刷物配付ニ関スル件

本月二十六日長崎高留日中華學生同窓會宛  
在北平援助留日被捕同胞會ノ名儀(本月十九日北

10/27

印

平消印)ニテ別紙訳文ノ如キ「北平援助留日被捕  
同胞會成立大會宣言」ト題スルモノ一葉及ヒ「北平  
援助留日被捕同胞會留日被捕同胞ヲ慰問スルノ  
代電」ト題スル黄色緑色紙ニ印刷モノ各一葉宛  
ノ不穩印刷物ヲ郵送越シタルモ學校側ニ於テハ  
之ヲ學生ニ交付セス保管中ナルカ他ノ方面ハ内偵  
ヲ為シタルモ郵送越シタル形跡ナレ  
右及申(通報候也)

北平援助留日被捕同胞會成立大會宣言

北平援助留日被捕同胞會ハ帝國主義ノ第二次大戰準備  
成熟シ中國分割ヲ企圖セントスルニ對シ被壓迫民族之ニ  
反抗肉搏交戦セントスル時代ノ產物ナリ

カクノ如キ重大ナル革命轉變ノ時期ニアリテ本會ハ留  
日被捕同胞援助ト反日運動擴大ノ重大任務ヲ負担ス  
ルモノニシテ大會成立シ羣衆憤激熱烈激昂セル雰圍  
氣ノ中ニアリテコノ種重大使命ヲ接受シタルナリ

帝國主義者ハ東亞市場ヲ掠奪セントシ中國ヲ最後ノ  
最主要の一投資對象トナレ爲ニ英米日ノ三角衝突ノ

最大銳トナル第二次大戰ノ火藥庫ハ已ニバルカン半  
島ヨリ太平洋ニ移轉サレ大戰ノ主要目標ハ明ラカニ  
中國ニ集中サレタリ日本帝國主義ノ滿蒙及中國北  
部獨占ノ計畫益々具体化シ中東鐵道事件發生ニ  
及ヒ機正ニ乘スコトナレ奉天ハルビン等ニ出兵  
シ長春及南滿沿線ニ兵營ヲ修造シ安東本溪湖  
等ノ所ニ砲台九十九個ヲ作りテ直接ニ中華民族  
革命運動ヲ脅威シ滿州ヲ変レテ第三ノ朝鮮タラ  
シメントスコノ種事實ハ則チ日本帝國主義中國  
ニ對シ侵畧採取ヲ逞シウレ民族革命運動壓迫  
シ却テ革命民衆ノ反帝思潮ヲ激烈ナラシムル所

ノ實證タリ

東方被壓迫民族衆ハ過去ノ悲惨ナル革命聖戦ニヨリ  
聯合戦線ノ戦畧ヲ習得シ昨年九月四日日本帝國主  
義ノ巢窟東京ニアリテ偉大ナル英雄ヲ聯合シタル  
反帝旗幟ヲ高ク掲ケ帝國主義ノ壘ヲ破壊シ過  
去静寂タリレ民族革命ノ思潮ヲ振興セシメタリ  
但レコノ偉大ナル反帝運動モ遂ニ日本帝國主義ノ  
武為ニ破壊サレ暫時失敗ノ状況ニアリテ中國三百  
余名ノ革命戦士ト日本朝鮮二十余名ノ親愛ナ  
ル同志等遂ニ日本帝國主義ニ逮捕セラレ且ツ毒刑  
拷問其他 万般ノ侮辱ヲ受クル所トナル之何タ

ル悲痛損失事ソヤ

然リト虽モ同胞諸君ヨ我々今回ノ運動ニ於テ勝利  
ヲ得ル事能ハサリシモ我々ハ却ツテ尊キ教訓ヲ得  
タルナリ

則チ今次ノ聖戦ニヨリ被壓迫民族ト帝國主義國家  
内ノ勞苦羣衆一切被壓迫階級ノ利害ハ完全ニ一致スル  
モノテアリ唯全世界一切ノ被壓迫民族衆聯合シ初メテ  
殖民地主地ノ民族ハ徹底的解放ヲ得全世界  
被壓迫階級ハ最後ノ勝利ヲ獲得シウルモノナル事ヲ  
知リタリ又今次ノ聖戦ハ政府ト外交官ノ決シテ信頼  
ス可キ價值アルモノニ非スレテ被壓迫階級ハ唯革命

手段ニヨリテ自己ノ徹底的解放ヲ期待シウルモ  
「テアリ」切ノ妥協、祈禱式方法ハ帝國主義ノ被壓  
迫民衆ヲ剋致セシメントスル麻醉劑ニ過キスレテ  
却ツテ帝國主義ニ代リテ我等ヲ束縛スル一繩索テ  
アリ帝國主義ニ向ツテ妥協哀憐ヲ求ムルハ無恥的  
投降ヲナスモノニ過キサル事ヲ明ラカニシタリ且ツ又  
今次ノ偉大ナル闘争ハ更ニ我等ニ威大ナル革命  
的勇氣ヲ惠與シタルト共ニ我等被壓迫民族ヲレテ帝  
國主義ノ榨暴ナル面目ヲ明確ニ認識セシメ及帝  
熱情ヲ増加セシメ且ツ我等ニ光明燦爛タル坦途  
ヲ指示シタリ

援助留日被捕同胞會更ニ一步ヲ進メ今次闘争ノ  
欠莫ヲ觀察スルニ中日朝鮮大多數革命羣衆ヲ  
联系スル廣汎ナル組織ナカリシ事、反帝ノ意義ヲ  
一般人民腦裡ニ深ク了解セシメサリシ事廣大ナル宣  
傳ヲナサザリシ事、全世界被壓迫民衆ニ對シ嚴  
密ナル联系ヲトラサリシ事及其自身ノ組織ト联  
累ニシカラサル欠陥アリシ事等ニシテ是則チ斯クノ  
如キ偉大ナル及帝運動ヲレテ失敗ニ歸セシメタル原  
因ナリ

思フニ帝國主義ハ目下最強大且ツ組織アルノ武  
力ヲ所有シ隨時其ノ武力ヲ以テ寸鉄ヲ帶ヒサ

ル青年及殖民地羣衆ヲ逮捕ス故ニ我々ハ廣大無量  
ノ反帝陣客反帝意義ノ宣傳ヲ以テ全部被壓迫階  
級ヲ積極参加セシメ初メテ亢焰ナル帝國主義ヲ  
克服シ彼帝國主義ヲソノ自ラ掘レル墓穴ニ送り  
得ルモノナリ北平援助留日被捕同胞會ハカク如  
キ歴史的使命ヲ有ス被壓迫同胞ヨリ革命的民衆  
ヲ蹶起コノ目的ヲ貫徹セヨ

上述ノ如キ觀察ト経験ヨリ北平援助留日被捕同胞會  
ハ次ノ如キ宣言ヲナス  
一留日被捕同胞救援ノ目的ヲ達スル為ニ全カヲアゲ  
テ今次東京事件ノ真相ヲ暴露シ全國及東

4

京被壓迫民衆ヲシテ反日運動ノ意義ト日本帝  
國主義ノ殘暴行為ヲ了解セシム

ニ反日運動ヲ擴大スル為ニ全國被壓迫民衆ヲ團結  
シ日本帝國主義一切ノ暴行ニ反抗シ各界同胞ヲ  
聯署シテ共同奮鬥ヲナス

三日本帝國主義ノ對支壓迫ニ對シ徹底的ニ反抗  
シ留日被捕同胞ノ精神ヲ繼續シ第二次世界大  
戰ニ反對シ日本帝國主義ノ滿蒙独占ト中國分  
割ニ反對ス

四被捕同胞ヲ救援スル為日本帝國主義ニ向ヒ直  
接抗議ヲナシ被捕同胞ノ即時釋放元凶懲

對我國民衆ニ對スル正式謝罪ヲ要求ス  
五日本帝國主義ヲ打倒スル爲ニ五四ノ精神ヲ振興  
ル日本帝國主義ノ走狗汪榮寶ヲ打倒ス

一月五日

（Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. Some characters like '日本' and '打倒' are faintly visible.)

北平援助留日被捕同胞會留日被捕同胞ヲ慰問スル代電

留日被捕同胞諸君一及帝戦士諸君

北平援助留日被捕同胞會ハ革命聲援ヲ集中シ留日被捕同胞救援ノ責任ヲ負担スル及日運動ヲ繼續擴大スルノ団体ナリ日本帝國主義ニ向ッテ革命的闘争ヲナスノ団体ナリ其ノ大会成立希上群衆ノ熱烈ニ革命情緒ノ中ニ在リテ全東亞被壓迫階級ヲ代表シ通電ヲ發シテ我等反帝戦線上ニ在リテ殘虐ナル日本帝國主義ニ逮捕セラレタル英勇の戦士等及日同時ニ諸君一我等反帝戦士等ノ熱烈ニ奮起スル致ス諸君一等ヲ慰問スル案ヲ一致通過セリ

日本帝國主義本身ノ内面的矛盾ハ日一日ト拡大深刻化ナレ異常志願科缺點ト殖民地投資機会ノ欠乏ハ日本帝國主義ノ缺陷ヲ益々深刻化シ遂ニ死滅ノ運命ニ陥ルベシナリ且一方別種帝國主義ニ對シテ日本帝國主義ノ雄大ナル資本勢力一ニ脅迫セラルト此ハ他方資本主義ノ組織訓練ヨリ生レル労働階級ト其ノ被壓迫殖民地半殖民地羣衆ノ革命階級ノ攻撃ヲ蒙ル之一ヨリ日本帝國主義ハ殘酷ナル労働階級採取革命群衆壓迫我等革命青年ヲ逮捕監禁ヲ敢行シ決死の最後ノ闘争ヲナハルヲ得ズ

留日被捕同胞諸君一及帝戦士諸君一諸君尚

繼續起革命、旗幟ヲ高く掲げ勇敢ニ前進セヨ  
見曰日本帝國主義、野蠻殘酷ナル革命部隊ノ  
破壊之工、其死滅ニ類セル凶兆多ク我々ハ一層努力  
最后ノ勝利獲得ニ盡カスベキナリ

中國革命ハ及初軍閥ト無恥ナルカ資產階級ノ  
虐殺ト賣國行為ニアヒ終然タル革命戦線破壊  
サレ大多數ノ革命同志ハ其犠牲トナリ帝國主義  
者ヲシテ聯合攻撃セラルル機会ヲ與ヘレム全被壓迫  
民衆為ニ更ニ深刻ナル苦痛ヲ受ル悲慘ナル五ニ停  
業スラ一部軍閥ハ改竄利用シ及日金運動ヲ起  
シタルニ過ギズ此ハ其革命ノ火種ハ遂ニ永遠ニ萌發

スルモノニ非ス且ソ帝國主義者ノ侵略ヲ甘受スルモ  
ノモ非ズ遂ニ日本帝國主義ノ策謀ニ奉命ニ在ラ  
革命ノ狭義ヲアグ之即チ諸君今次ノ英雄闘争ニ  
テ其結果ハ挫折ニ終ル然レモ中國ノ破壊セラレタル  
革命戦線ヲ整理拡大シ至無全体被壓迫階級ノ  
聯合シ日本帝國主義ヲ破壊スルハ之豈重大ナル責  
任ナラヤ之ヲ思ヒバ鎖細ナル犠牲ハ斯レ重大責任ヲ  
果スルメハ犠牲ニ過ギズ諸子ノ今次ノ英雄的行爲ハ則  
チ中國革命ノ高潮ヲ促シタルモノナリノ中ノ革命ノ  
警鐘ヲ打センモノニテ諸君ノ行爲ハ方ニ最大光榮ヲ  
受クベキ價值アルモノナリ

北平援助留日被捕同胞会誓ヲ方ニ負担スヘキノ  
責任使命ヲ負ヒ留日被捕同胞ノ反帝戦士ノ精神  
ヲ繼承シ帝ノ主義ニ向フテ最后ノ決戦ヲ行ハシ勝利ノ  
榮冠ヲ諸君——前敵戦士諸君——頭上ニ掲ガヘシ  
北平援助留日被捕同胞会ハ諸君今此ノ紀念ニハキ  
聯合戦線崩壊中ニ在リテ榮キ至驕ヲ得タリ則チ帝  
國主義内ノ劣勢階級ト殖民地半殖民地被圧朝鮮愛ノ  
利益ニ致スルモノヲアリテ中國ノ豪紳反動政權階級ハ反  
シテ帝國主義ヲ援助シ被辱本國ノ革命青年ヲ陷メ  
レトスルモノナル事ヲ知リタリ我等方此ノ時ニ在リ  
如何ニシテ此ノ榮キ至驕ヲ利用シ聯合戦線ヲ強固

ニシテ帝國主義ノ堅固ヲ破壊スヘキカ

最后ニ北平援助留日被捕同胞会鄭重ニ留日同胞ニ  
向フテ請フモノ次ノ如シ

1. 被捕同胞ノ反帝精神ヲ繼續スル事
2. 國內革命勢力ト聯繫シ一致的進行歩調ヲ上事
3. 被捕同胞ト諸君ノ消息ヲ隨時我々ニ告グル事
4. 協力シテ被捕同胞ヲ救援スル事
5. 日本——被圧階級ト殖民地朝鮮台灣ノ被  
壓民衆トニ對シテ聯合戦線ヲ作ル事

北平援助留日被捕同胞会一月十五日

文部省

特秘収外第一二六三号

昭和五年一月三十日

愛知縣知事 岡 公 雄

昭和五年一月廿日 接受

(大)

大正  
大正  
大正

内務大臣 安達謙藏殿  
務大臣 幣原喜重郎殿  
陸軍大臣 宇垣一成殿  
警視總監 丸山鶴吉殿

在留支那實習生ノ動靜ニ于スル件

本籍 支那四川省華陽縣  
住所 名古屋市中区霞町一三

名古屋高工卒業生 萬 鵬

當二十五年

右者 客年三月名古屋高等工業學校紡織科卒業  
業后市内南區内外紡績株式會社ニテ実習中  
ナリ本年二月上旬ヨリ東京府下南千住陸軍製  
織所ニ入り研究ノ希望ヲ有シ目下陸軍大臣(閣  
下)宛出願手續中ノ趣ニ付御参考ニ造  
右及申(通)報候也

昭和四年七月七日 警視庁 秘少一六号ノ添付シヨリト（西郷通商館中）

文書課長

公 信 案

（甲 號 用 紙）

文書課發送

淨書

正（原稿）

（淨書）

主 管 文書課長

主 任 第一課長

（起草 昭和五年一月十一日）

文書一課 機密 第

號

大正 年 月

日 附

附 屬 書

通

廢

度要トシテ取ル  
山井博士、送ル

|                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| 受信<br>人名<br>日華學會理事 山井祐太郎    | 發信<br>人名<br>文化事業部<br>三枝書紀官 |
| 件名<br>共產黨関係支那留學生葉培<br>ニ關スル件 | 綴 込 名                      |

今般共產黨関係者トシテ退去處分ニ附セラル東京美術学校

生徒（自大正十三年十月 東亞高等豫備學校在籍）ニ關シ其ノ協助

報告中左ノ一節有之タルヲ以テ御參考迄及送附ニ付御

公 信 案

外 務 省

508/29/

（原 議 用 紙 乙）

査閱相成度此般申進ス

記

昭和四年八月中旬中華留日銷夏團ニ加ハリ房州館山（避暑）

署中方洛ノ紹介ニテ中國共產黨日本特別支部ヲ指導

スル中國反帝同盟ニ加盟スルトニ共鳴シ九月四日同同盟主催

ノ銀座街頭ニ於ケル示威運動ニ組員陸選昌、方洛、耳聯

外 務 省

3.2

H-0941

0097

余緒ト共ニ参考  
加シタルモノナリ

(原議用紙乙)ナ

了

外務省

3.2

H-0941

0098